

# 留学白書 2023



2024.6

留学支援共同利用センター

## 『留学白書 2023』について

東京外国語大学が2014（平成26）年度に文部科学省スーパーグローバル大学創成支援（タイプB:グローバル化牽引型）に選定されてから10年が経ち、同事業は2023年度で終了しました。申請で掲げた留学に関する目標は、学生が卒業までに一人2回留学する、「留学200%」です。その目標を達成するために、本学の学生がどのような留学を行っているのかを確実に把握することが必要となり、本白書の作成が始まりました。

その目的の下、本学の留学状況をまとめた留学白書も10冊目となりました。2023年度は、COVID-19のパンデミック後に全面的に海外派遣が再開して2年目でしたが、国際情勢の不安定化や政情不安、治安悪化、世界的な物価上昇、為替相場における円安など、海外への留学を目指す学生にとっては、厳しい状況となりました。長期留学者数は前年度よりも若干増加しているものの、短期留学者数は減少しており、今の状況を反映していると思われます。今後も厳しい状況が続くと思われませんが、ひとりでも多くの学生が自身にとって望むような留学を実現できるよう支援していきたいと考えています。

なお、本『留学白書 2023』は7章から成っています。I章からVI章が分析編、VII章が資料編です。

これにより本学の留学状況の全体像を知っていただければ幸いです。

2024年6月

留学支援共同利用センター

## 目次

### 分析編

I. 留学の種類 .....	6
1. 長期留学 .....	6
①交換留学（学部、大学院） .....	6
②ダブルディグリープログラム（DDP） .....	6
③休学留学（学部） .....	6
④自由留学（学部） .....	7
⑤長期インターンシップ等（学部、大学院） .....	7
⑥長期研究留学（大学院） .....	7
⑦海外フィールドワーク等（大学院） .....	7
2. 短期留学 .....	8
① ショートビジット（学部、大学院（修士）） .....	8
② スタディツアー（学部） .....	8
③ 短期自由留学 .....	8
④ 短期インターンシップ（学部、大学院） .....	9
⑤ 日本語教育インターンシップ（学部、大学院） .....	9
⑥ Joint Education Program（JEP）（大学院） .....	9
3. オンライン留学 .....	9
II. 2023年度 留学状況について（概要・学部生） .....	10
III. データから見える傾向や課題等について .....	14
IV. 2023年度 留学状況 .....	15
1. 学部学生（長期・短期総合） .....	15
①留学者総数 .....	15
②学年別・期間別留学者数 .....	15
③2014年度から2023年度の期間別留学者数の推移 .....	16
④学部別・期間別留学者数 .....	16
⑤学年別、期間別の留学者割合の経年変化 .....	17
2. 学部学生（長期留学） .....	19
①留学種別別・留学開始年度別長期留学者数 .....	19
②留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者） .....	19

③留学種別長期留学者数の推移.....	20
④留学種別長期留学者数と長期留学者総数に対する割合.....	21
⑤学生交流協定校数と交換留学者数の推移.....	21
⑥留学先地域別・留学種別長期留学者数.....	22
⑦留学先地域別長期留学者数の推移.....	23
⑧留学先国別・留学種別長期留学者数.....	24
⑨長期留学者の給付型奨学金受給状況.....	26
⑩2021年度長期留学者の単位認定状況.....	28
3. 学部（短期留学）.....	29
①留学種別短期留学者数.....	29
②学部別・留学種別短期留学者数.....	29
③学年別・留学種別短期留学者数.....	29
④留学年度別・留学種別短期留学者数の推移.....	30
⑤留学先地域別・留学種別短期留学者数.....	31
⑥留学先地域別短期留学者数の経年変化.....	31
⑦留学先国別・留学種別短期留学者数.....	32
⑧短期留学者の単位認定状況.....	33
⑨短期留学者の奨学金受給状況.....	33
4. 大学院生（短期・長期）.....	34
①大学院生の長期留学について.....	34
②大学院生の短期留学について.....	34
③大学院生の奨学金受給状況.....	35
5. オンライン留学の状況.....	36
V. 2023年度学部卒業時点での留学状況について.....	37
①卒業生の在学中の長期留学回数.....	38
VI.SGU指標（2024年6月 フォローアップ調査）.....	40
<b>資料編</b>	<b>44</b>

# 分析編

## I. 留学の種類

本学では、長期留学で7つ、そして短期留学で6つ、留学の種類を分類しています。白書では、この13のタイプの留学者数の推移に注目していきます。

### 1. 長期留学

本学では、4学期制における1学期以上の期間の留学を、長期留学として定義しています。夏学期のみ、冬学期のみの留学は短期留学に分類されます。

※新型コロナウイルスやウクライナ情勢の影響により、長期留学の予定だったものが、早期帰国により期間としては短期留学の期間となった場合でも、本書では長期留学としてカウントしています。

#### ①交換留学（学部、大学院）

本学協定校との学生交換の枠組みで、本学から派遣される形の留学です。

##### ■交換留学・さらに詳しく■

2023年5月1日現在で、本学が学術交流協定を締結している71カ国・地域の236の教育機関のうち、181の大学・高等教育機関と学生交換に関する協定が結ばれています。協定に基づき、海外の協定校の学生が来日して本学で学ぶ一方、本学から先方大学に学生が派遣されます。

交換留学では、学生は本学を休学することなく派遣されることから、交換留学期間を含めて4年で卒業することが可能です。ただし就職活動との関係などから、実際には卒業を延ばす学生が多いのが実情です。

交換留学では、留学先の学費が免除される代わりに、本学に学費を納入します。生活にかかる経費は派遣先により異なりますが、大学としては給付型奨学金の確保に努めています。2023年度出発の交換留学では298人中236人（うち6人大学院生）の派遣者が奨学金を受給しており、うち193人（うち6人大学院生）にJASSO（日本学生支援機構）海外留学支援制度奨学金が支給されました。JASSO奨学金の受給には、家計基準や本学での学業成績（GPA）が考慮されるほか、派遣先での単位取得が条件となっています。

#### ②ダブルディグリープログラム（DDP）

本学と海外協定校との間で、協定を締結し、在学中に本学および協定校の双方で単位を取得し、修了時に二つの学位が取得できるプログラムです。

##### ■ダブルディグリープログラム・さらに詳しく■

2023年度時点で、国際日本学部でセントラルランカシャー大学とのDDP、大学院前期博士課程で、中央ヨーロッパ大学等との共同のHIPSプログラムがあります。

#### ③休学留学（学部）

休学をして留学するもののうち、単位認定の申請を行って留学をするものです。

#### ■休学留学・さらに詳しく■

単位認定が可能な留学先教育機関は、事前に教授会で承認される必要があります。休学留学により取得した単位は、本学の卒業必要単位の一部とすることができます。ただし、出発前に単位認定を申請したものの、帰国後、実際に単位認定の手続きをする学生の数が必要でも多くないため、単位認定者数を増やすのが課題です。

#### ④自由留学（学部）

休学して留学するもののうち、単位認定の申請なしに留学をするものです。

#### ■自由留学・さらに詳しく■

語学留学・学部留学を問わず、単位認定の申請をせずに、海外の教育機関等に留学するものを自由留学と呼んでいます。

#### ⑤長期インターンシップ等（学部、大学院）

休学して海外に在住するもののうち、その目的がインターンシップのものです。2015年より始まった国際交流基金による「日本語パートナーズ派遣事業(※)」による派遣、在外公館勤務等も含まれます。

#### ※日本語パートナーズ派遣事業

独立行政法人国際交流基金が実施する事業で、幅広い世代の人材を、ASEAN諸国等の教育機関（主に中学・高校）で日本語を教える教師やその生徒の日本語学習の「パートナー」として派遣するものです。日本語パートナーズは、授業のアシスタントや会話の相手役といった活動をするとともに、教室内外での日本語・日本文化紹介活動等を行い、ASEAN諸国の日本語教育を支援します。同時に、日本語パートナーズ自身が現地の言語や文化についての学びを深め、ASEAN諸国等と日本の懸け橋になることを目標としています。

#### ⑥長期研究留学（大学院）

大学院生が休学をして、海外の教育機関に留学するものです。単位認定はありません。コチューテル※、日本学生支援機構の海外留学支援制度（大学院学位取得型）での留学等を含みます。

#### ※コチューテル（外国の大学院等との博士論文共同指導）（本学における定義）

博士課程に所属する学生の研究指導を行うにあたり、所属大学と外国の連携高等教育機関との間で協定を締結した上で、双方の指導教員が共同指導を行い、博士論文が合格となった場合には、所属大学と連携機関の双方から、それぞれ学位を授与される制度です。

#### ⑦海外フィールドワーク等（大学院）

大学院生が休学をし、教育機関等に属さずに海外で研究活動を実施するものです。

## 2. 短期留学

本学では、夏学期・冬学期に行う留学や、学期中に大学が行うプログラムによる留学を、短期留学と定義しています。休学して行う留学は短期留学には含まれません。

### ① ショートビジット（学部、大学院（修士））

夏学期・冬学期に、海外の本学協定校に留学するものです。世界教養プログラム「短期海外留学」を履修します。留学前教育、留学後教育の取り組み状況を考慮して単位認定が行われ、1回の留学に対し2単位が付与されます。

ショートビジットプログラムのうち、全員型プログラム（原則、対象者全員参加のプログラム）の形を取っているのは、以下の8つの言語です。

#### 全員型プログラム（ショートビジット）専攻言語・留学先および留学時期

専攻言語	留学先	留学時期
ベトナム語	ベトナム国家大学ハノイ人文・社会科学大学	1年次夏学期
ビルマ語	ヤンゴン大学（※）	1年次夏学期
トルコ語	アンカラ大学	1年次夏学期
アラビア語	アレキサンドリア大学、アリー・バーバー・インターナショナル・センター	1年次冬学期
ラオス語	ラオス国立大学	1年次冬学期
タイ語	チュラーロンコーン大学	1年次冬学期
ベンガル語	ジャドブプル大学	1年次冬学期
カンボジア語	王立プノンペン大学（※）	2年次冬学期

※2023年度は実施せず

### ② スタディツアー（学部）

本学協定校との共同教育や海外での学修体験の獲得を目的に、本学や他の公的機関が実施するプログラムに参加するものです。世界教養プログラム「スタディツアー」を履修します。ショートビジット同様、1回の留学に対し2単位が付与されます。

#### ■2023年度に実施したスタディツアー■

- 国連研修プログラム（アメリカ・ニューヨーク） 冬学期
- ウズベキスタン・スタディツアー 冬学期
- マレーシア・スタディツアー 冬学期
- UCLAでの移民言語学スタディツアー 冬学期

### ③ 短期自由留学

大学のプログラムを利用せずに個人的に探してきた短期の留学プログラムや、協定校以外が実施する短期語学研修プログラムに参加するものです。

#### ④ 短期インターンシップ（学部、大学院）

本学のグローバルキャリアセンターが実施する海外での短期インターンシップに参加するものです。

##### ■2023 年度に実施した短期インターンシップ■

- UMW Toyota Motor Sdn Bhd（マレーシア）
- FIDR（国際開発救援財団）（カンボジア）

#### ⑤ 日本語教育インターンシップ（大学院）

日本語教育を学ぶ本学学生が、海外で行うインターンシップです。大学院の日本語教育分野で実施されています。国際交流基金と連携して、海外で日本語教育を実施するものなどがあります。

2023 年度は、4 名の大学院生を、ベトナム、中国、台湾へ派遣しました。

#### ⑥ Joint Education Program（JEP）（大学院）

大学院生を、それぞれの研究計画に即して、夏学期・冬学期に世界各地の本学協定校の関係分野の研究室等に派遣し、研究力の向上に資する機会を提供するものです。これにより、①現地の協定校の教員から、研究上のアドバイスを得る、②修士・博士論文のための資料収集や現地調査を行う、③研究対象地域の大学での修学経験を積み現地理解を深める、などの目標を達成させることとなります。派遣の成果は本学における主任指導教員の担当科目または「専門特殊研究」の一部として成績評価に反映させるものとしています。

### 3. オンライン留学

新型コロナウイルスのパンデミックにより海外渡航が制限される中、テレビ会議システムなどの IT 技術を利用したオンライン授業が世界各地の大学で実施されています。こうしたオンライン・リモート環境下での留学を「オンライン留学」と呼ぶことにしています。

現地渡航が再開した後も、一部の大学ではオンラインによる授業が実施されているところがあったり、ウクライナ情勢の悪化により早期帰国を余儀なくされた学生が、日本からオンラインで現地の授業を受講したりすることがありました。2023 年度については、オンライン留学の実績はごくわずかとなりました。

本白書では、オンライン留学の実績についても掲載しています。

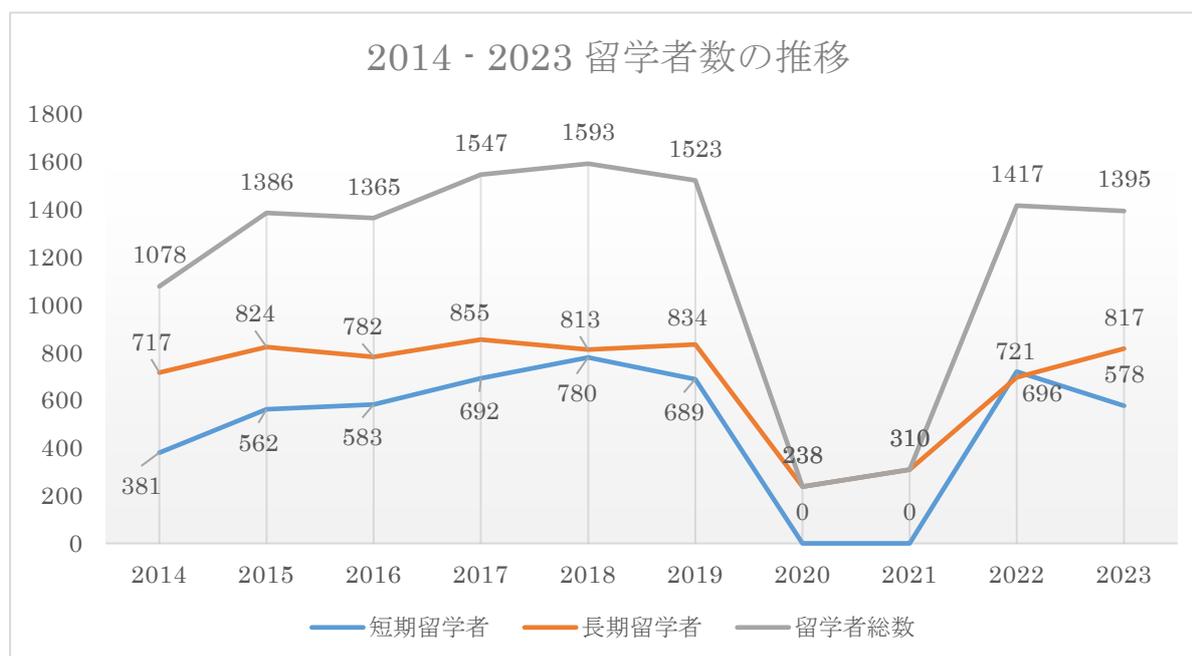
## Ⅱ. 2023 年度 留学状況について（概要・学部生）

2023 年度の本学の学部生の留学状況については、長期、短期で以下の実績となりました。長期留学者については、2023 年度に留学を経験した人数（年度内出発者、年度内帰国者、年度内留学継続者）の合計です。

Table 1. 2023 年度短期、長期留学者数

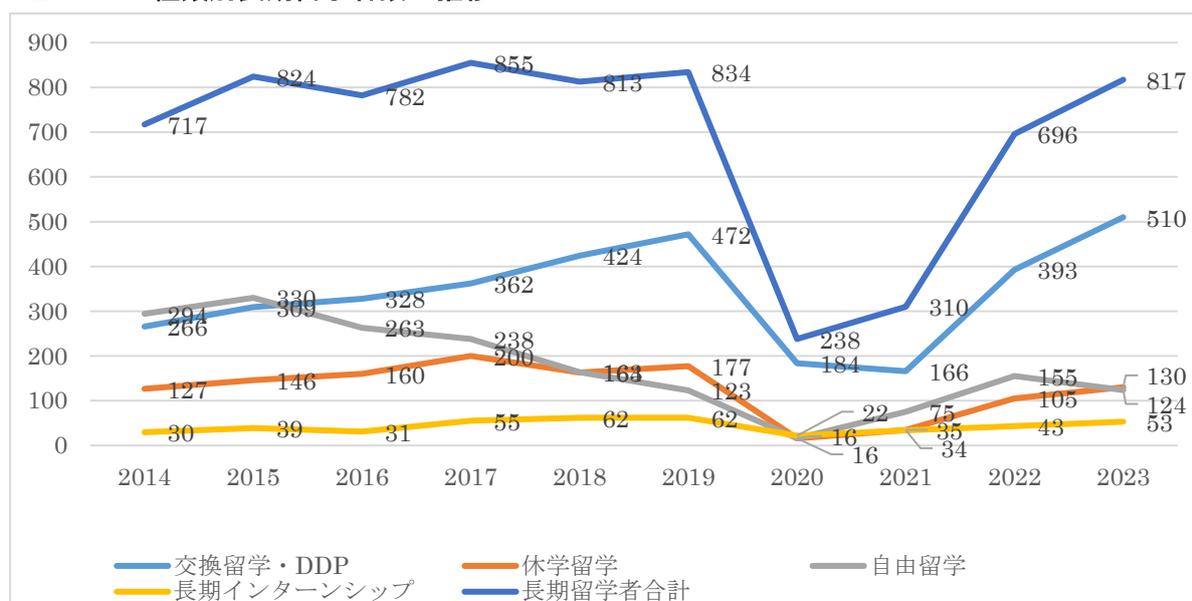
留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
留学者数	578	817	1,395	3,684

Table 2. 2014-2023 留学者数の推移



留学者総数は、2022 年度と比較すると若干の減少となりました。長期と短期の内訳をみると、長期は 2022 年度に比べて 120 名近く的大幅な増加となっている一方で、短期は、150 名ほどの大幅な減少となっています。学生交流協定による交換留学生の派遣枠の拡大や、COVID-19 パンデミックによる渡航制限のほぼ全面的な解除などが人数増加に寄与していると考えられます。短期留学者数の減少については、現地情勢により派遣を実施できない地域が増加したこと、また、COVID-19 パンデミック以降、短期研修プログラムを開講しなくなった協定校があることなど、外的要因により留学プログラムが減少したことが一因として考えられます。また、世界的な物価上昇、為替相場における円安等による留学費用の高騰が影響していると考えられます。留学にかかる費用が増大しているため、複数回の留学を諦めて、短期留学への参加を見送り、長期留学のみ参加している学生が多数いると推測されます。

Table 3. 種別別長期留学者数の推移



① 長期留学者数合計について：昨年度よりも大幅増加

2023年度はロシア、ベラルーシへの渡航が依然としてできない中、他の地域でも情勢悪化にともない、外務省の海外安全情報において危険レベル引き上げなどにより、学生派遣をできない地域が増えました。そうした状況であったものの、長期留学者数は2022年度に比べると120名ほど増加し、COVID-19パンデミック以前の水準に戻りつつあります。

② 長期留学 種別別における傾向

交換留学の人数は、2014年度以降で、過去最多となりました。これは、協定校の新規開拓を進めてきたことや、個別の協定校の派遣人数枠の拡大に努めてきた結果と考えられます。

休学留学、自由留学に関しては、自由留学が減少し、休学留学が増加しています。2022年度は、COVID-19パンデミックの影響が残っており、単位認定が難しい英語圏への語学留学者が多くいました。2023年度は、そうした制約もほぼなくなっており、単位認定申請ありの留学（休学留学）が増えたと考えられます。

長期インターンシップについては、コロナ禍を経て緩やかな回復傾向にあります。在外公館派遣員や日本語パートナーズの公務での渡航者が半数以上を占めています。

### 給付型奨学金受給状況

以下は、2023年度に留学を経験した学生のうち交換留学、その他で分けた場合の受給状況となります。例年通り、交換留学の学生は多数が何らかの奨学金を受給しており、休学等の場合は奨学金受給の機会が少ないことが伺えます。

Table 4-1. 奨学金受給状況（交換留学生）

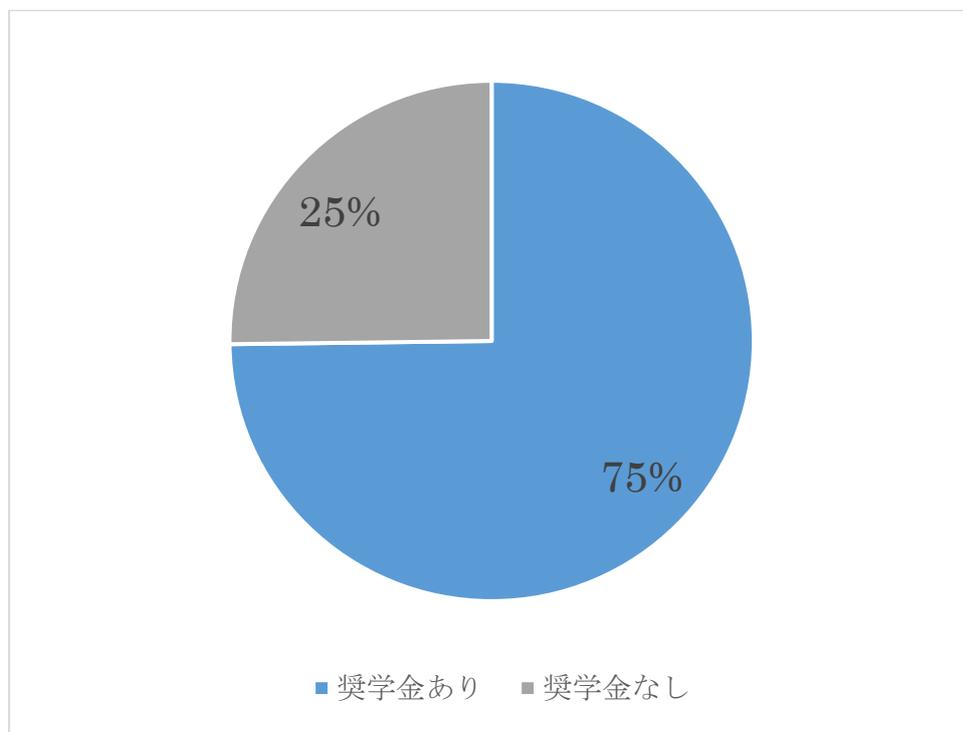


Table 4-2. 奨学金受給状況（休学・自由留学、長期インターンシップ※公務は除く）

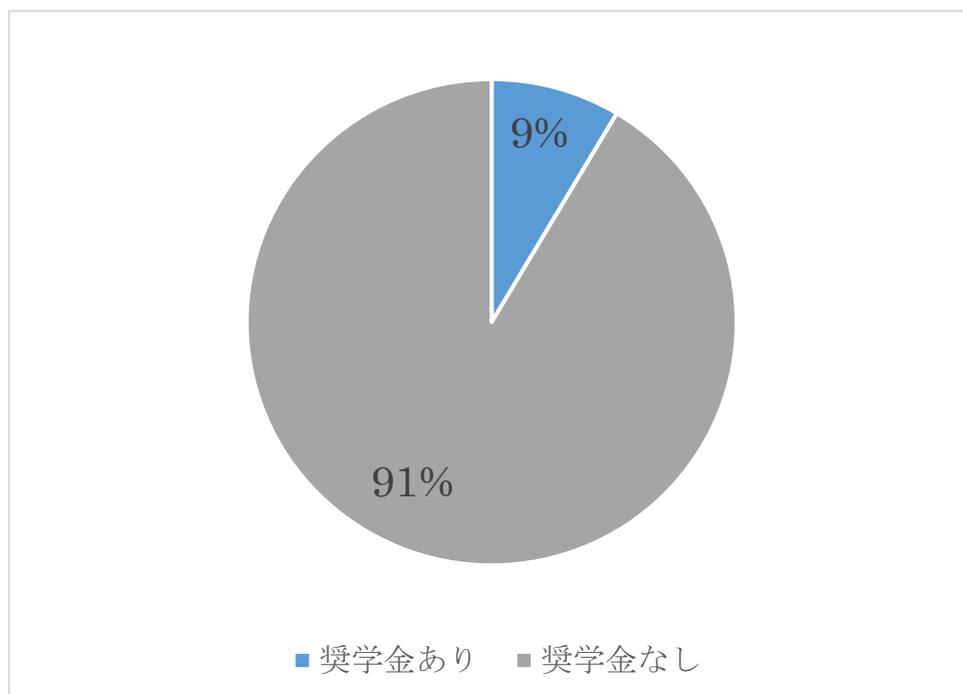
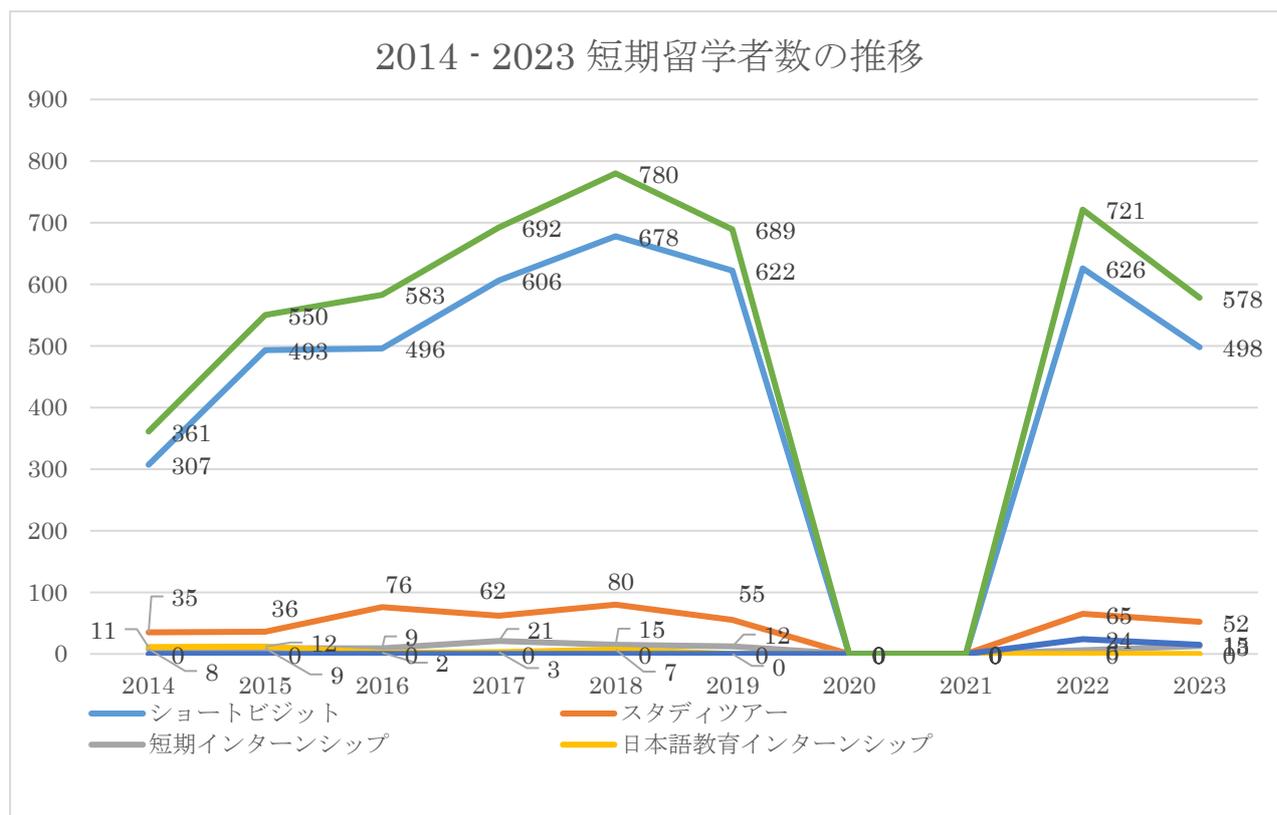


Table 5. 2023年度短期留学者数



	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
ショートビジット	307	493	496	606	678	622	0	0	626	498
スタディツアー	35	36	76	62	80	55	0	0	65	52
短期インターンシップ	8	9	9	21	15	12	0	0	6	13
日本語教育インターンシップ	11	12	2	3	7	0	0	0	0	0
短期自由留学	0	0	0	0	0	0	0	0	24	15
短期留学者総数	361	550	583	692	780	689	0	0	721	578

ショートビジットは、2014年度から毎年順調に参加人数を増やしてきましたが、2020年度、2021年度はCOVID-19の影響により派遣することができませんでした。2022年から現地渡航を再開した結果、2022年度は2018年度に次いで過去2番目に多い派遣人数となりましたが、2023年度は、大幅に参加者数が減少しました。これは、留学費用の高騰や世界情勢の不安定化などが影響していると推測されます。スタディツアーは、ウズベキスタン、国連、マレーシア、UCLAの4つが実施されました。ウズベキスタンのスタディツアーの参加者が例年よりも若干減りました。日本語教育インターンシップはオンラインにて実施されており現地派遣は行っていない状況です。短期自由留学は、個人的に夏学期、冬学期に短期の留学をするもので、留学支援共同利用センターで把握できたものをカウントしています。

### Ⅲ. データから見える傾向や課題等について

#### ①短期留学者数について

2023年度の傾向として顕著なのは、短期留学者の人数減です。長期留学者数はCOVID-19パンデミック前の水準に戻りつつありますが、短期留学者数は、2022年度よりも大幅に減少しました。特にショートビジットプログラムの参加者が大きく減りました。為替相場での円安傾向、世界的な物価上昇により、留学費用が高騰していることが背景にあると推測されます。短期留学の費用は、数年前を比べると1.5倍から2倍程度になっており、具体的には、アメリカの4週間の英語研修では100万円以上かかるケースも珍しくありません。そのような中、短期の留学を控えて、その分の費用は長期留学に充てるとしている家庭も多くあると思われます。大学としては、奨学金情報の積極的な提供、奨学金応募時のサポート（書類へのアドバイス等）などを行うことで、経済的援助を必要とする学生が留学を実現できるよう支援していきます。

#### ②留学の単位認定について

交換留学や休学留学では、帰国後に留学先で取得した単位を本学の単位に認定する手続きをすることが求められますが、手続きしない学生が一定数います。原則としては単位認定をすべきであるため、学生への啓発が必要と考えています。

留学白書2021に掲載されている交換留学者・休学留学者（2021年度に帰国した学生および出発した学生）の単位認定状況は以下のとおりです。

#### 留学白書2021掲載者の単位認定状況

留学種類	留学者数 (学部生)	うち単位認定有 (2023年度末まで)	単位認定者率
交換留学	167	90	54%
交換留学(オンライン)	52	17	33%
休学留学	35	12	34%
休学留学(オンライン)	3	3	100%

COVID-19パンデミックの影響を受けた学生が多い年度となります。そのことが影響しているのかどうかは不明ですが、交換留学者でも単位認定を行った学生は5割程度となっています。例年は7割程度のため、低い割合と言えます。休学留学者の単位認定率も3割程度とかなり低い割合です。単位認定者を増やすため、積極的に単位認定をするよう学生に呼び掛けて参ります。

#### ③大学院生の留学について

大学院生の留学者数については、長期留学者は前年度から減少しましたが、短期留学者は増加しており、合計では前年度と同水準となっています。

院 Table 1. 2014年度から2023年度の大学院生の期間別留学者数の推移



## IV. 2023 年度 留学状況

### 1. 学部学生（長期・短期総合）

#### ①留学者総数

2023 年度の期間別留学者数は以下のとおりです。

2023 年度留学者総数（学部生）（学生総数は、2023 年 5 月 1 日時点）

留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
留学者数	578	817	1,395	3,684
オンライン留学	0	2	2	（参考）

2023 年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）の間に、留学を経験した学生の数は、長期留学者 817 人、短期留学者 578 人の、合計 1,395 人です。2022 年度は合計 1,417 人でしたので、若干の減少となりました。短期留学者は、2022 年度の 721 名から 578 名に減少しましたが、長期留学者は、2022 年度の 696 名から 817 名に増加しました。前述の通り、留学費用の高騰により、短期留学を控えて、長期留学に資金を充当しているケースがあるのではないかと推測します。なお、長期留学者数には、2022 年度以前に留学を開始し 2023 年度中に帰国したものと、2023 年度中に出発して帰国したもの、また 2023 年度中に出発して 2024 年 3 月 31 日現在、海外滞在中のものを含みます。

#### ②学年別・期間別留学者数

2023 年度の渡航時学年別、期間別の留学者数は以下のとおりです。（実渡航者）

Table 6. 学年別・期間別留学者数（太字は 5 割を超えた数）

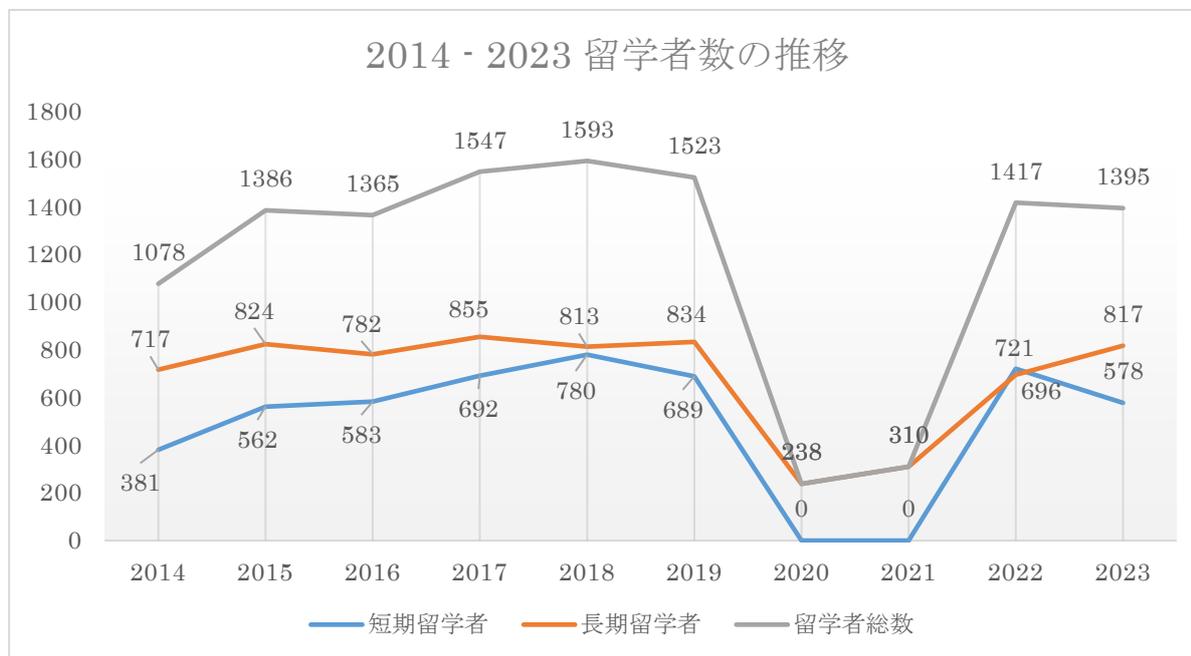
学年	短期	学生総数 中の短期 留学者数 の割合	長期	学生総数 中の長期 留学者数 の割合	留学者 総数（人）	留学者数 の割合	学生総数 （人）
1	297	37.7%	2	0.3%	299	38.0%	787
2	209	25.2%	33	4.0%	242	29.2%	829
3	40	4.6%	<b>655</b>	<b>75.5%</b>	<b>695</b>	<b>80.1%</b>	868
4	32	2.7%	127	10.6%	159	13.3%	1,200
合計	578	15.7%	817	22.2%	1395	37.9%	3,684

2023 年度の実渡航を伴う留学者数は上記の通り 3 年生が大多数を占めています。短期留学では、1、2 年生の参加者が多数を占めており、3、4 年生での短期留学者は少数です。長期留学では、3 年生の留学者数が一番大きくなっていますが、これは例年と同様の傾向です。

### ③2014 年度から 2023 年度の期間別留学者数の推移

留学白書作成を開始した 2014 年度から 2023 年度までの期間別留学者数の推移は、以下のとおりです。

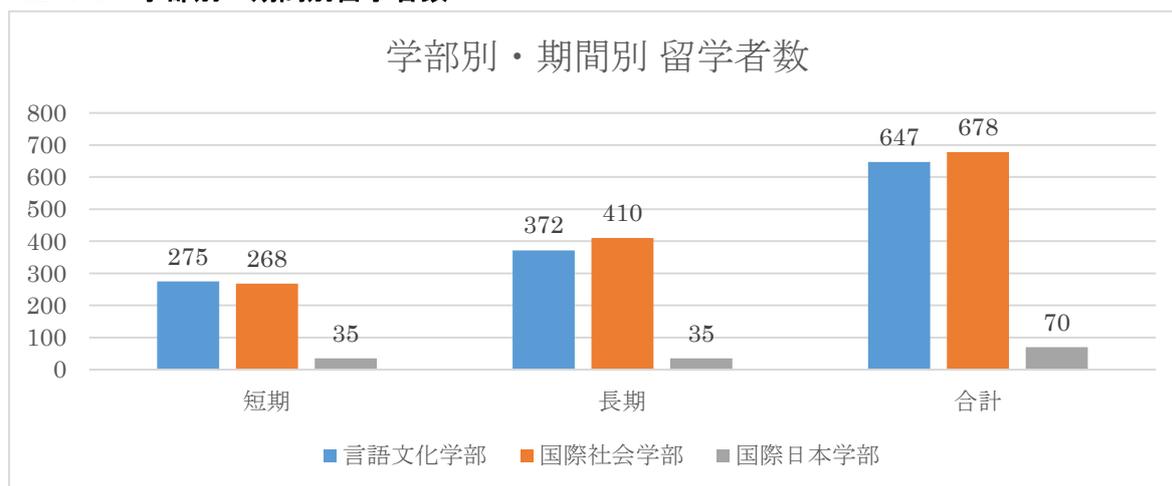
Table 7. 2014 年度から 2023 年度の期間別留学者数の推移

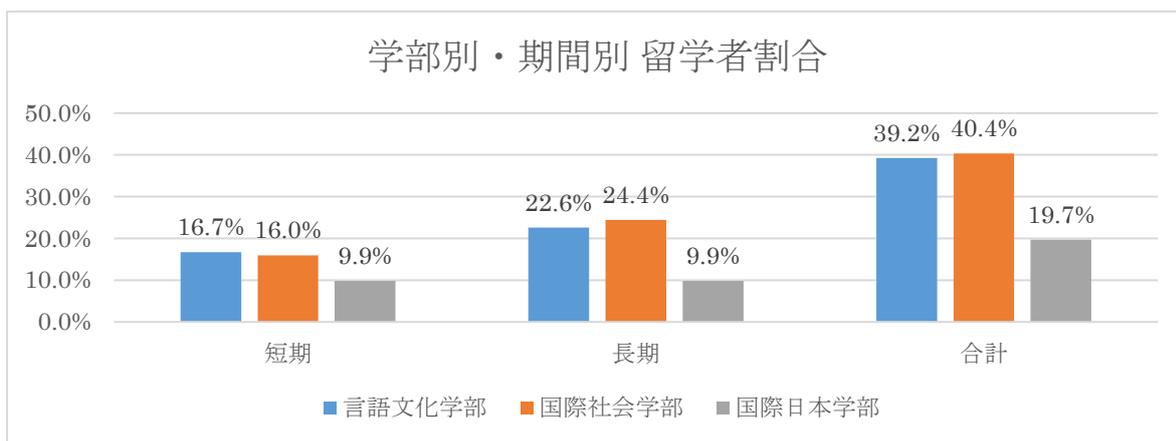


2023 年度は、2022 年度よりも若干留学者数が減少しました。長期留学者数は前年度を大きく上回る数となりましたが、それ以上に短期留学者の人数が減りました。

### ④学部別・期間別留学者数

Table 8. 学部別・期間別留学者数



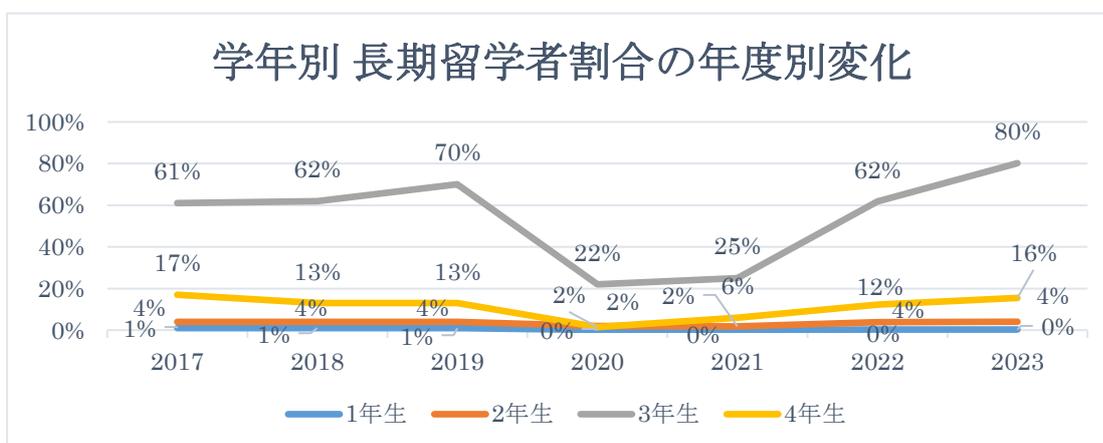
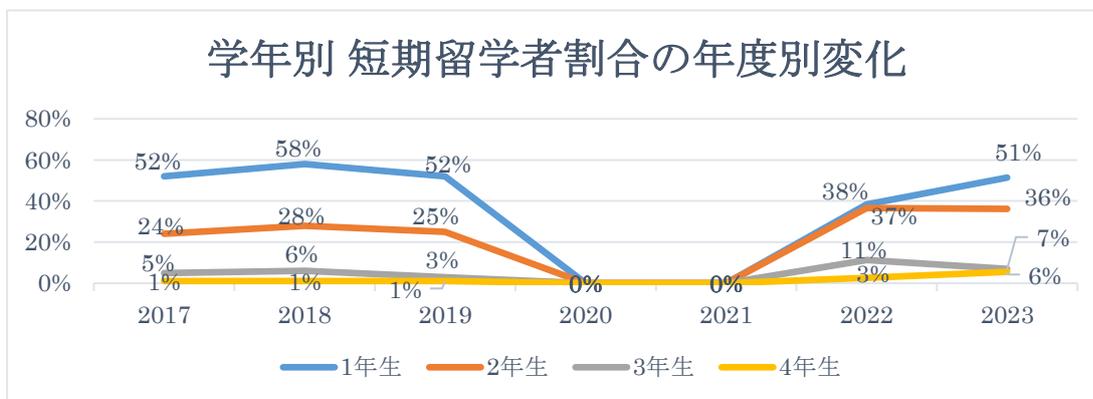


言語文化学部と国際社会学部の留学者数を比べた場合、国際社会学部が若干多くなりましたが、それほど大きな差ではなく、2つの学部の間で、留学者数の顕著な違いは見られません。国際日本学部は他の2学部と比べると定員が小さいため留学者割合で比較すると、留学者割合は、言語文化学部、国際社会学部の半分程度となっており、留学する学生が少ないことが分かります。これは、国際日本学部の学生の半数は留学生であることが要因となっていると考えられます。

#### ⑤ 学年別、期間別の留学者割合の経年変化

短期留学に関して、2022年度は3年生の参加者が例年よりも増えていましたが、2023年度は以前と同様の水準となっています。一方で2年生での参加者は前年度と同水準で大きな減少は見られませんでしたが。長期留学に関しては、3年生での参加が圧倒的に多く、次いで4年生での留学となっています。

Table 9. 学年別・留学期間別の留学者割合の経年変化



⑥専攻言語別・期間別留学者数

専攻言語による留学者数・率は下記の通りです。日本語専攻は留学生も多数在籍しているため、留学者の割合が低い傾向にあります。

Table 10. 専攻言語別・期間別留学者数（留学者の割合が多い順）

専攻言語	学生総数	短期留学		長期留学		留学者総数	
		留学者数	割合	留学者数	割合	留学者合計	割合
ポーランド語	68	27	39.7%	19	27.9%	46	67.6%
タイ語	75	20	26.7%	25	33.3%	45	60.0%
トルコ語	71	23	32.4%	16	22.5%	39	54.9%
マレーシア語	54	15	27.8%	12	22.2%	27	50.0%
朝鮮語	142	12	8.5%	55	38.7%	67	47.2%
ラオス語	49	12	24.5%	11	22.4%	23	46.9%
ベンガル語	47	12	25.5%	10	21.3%	22	46.8%
ベトナム語	61	13	21.3%	14	23.0%	27	44.3%
ポルトガル語	107	12	11.2%	35	32.7%	47	43.9%
フランス語	247	42	17.0%	64	25.9%	106	42.9%
イタリア語	127	18	14.2%	36	28.3%	54	42.5%
ヒンディー語	93	23	24.7%	16	17.2%	39	41.9%
スペイン語	277	36	13.0%	79	28.5%	115	41.5%
ビルマ語	44	13	29.5%	5	11.4%	18	40.9%
チェコ語	59	13	22.0%	11	18.6%	24	40.7%
モンゴル語	66	16	24.2%	10	15.2%	26	39.4%
インドネシア語	94	8	8.5%	29	30.9%	37	39.4%
中国語	257	37	14.4%	64	24.9%	101	39.3%
ドイツ語	250	41	16.4%	57	22.8%	98	39.2%
カンボジア語	48	6	12.5%	11	22.9%	17	35.4%
アラビア語	137	22	16.1%	26	19.0%	48	35.0%
ロシア語	274	37	13.5%	53	19.3%	90	32.8%
英語	468	67	14.3%	86	18.4%	153	32.7%
フィリピン語	61	4	6.6%	15	24.6%	19	31.1%
ペルシア語	65	8	12.3%	12	18.5%	20	30.8%
ウルドゥー語	67	8	11.9%	11	16.4%	19	28.4%
日本語	376	33	8.8%	35	9.3%	68	18.1%
総計	3684	578	15.7%	817	22.2%	1395	37.9%

## 2. 学部学生（長期留学）

学部生の長期留学に関するデータを整理します。

### ①留学種類別・留学開始年度別長期留学者数

2023年度に留学を開始した学生は451人、うち交換留学・DDPが293人、休学をして留学（休学留学、自由留学、長期インターンシップ）した学生が158人です。

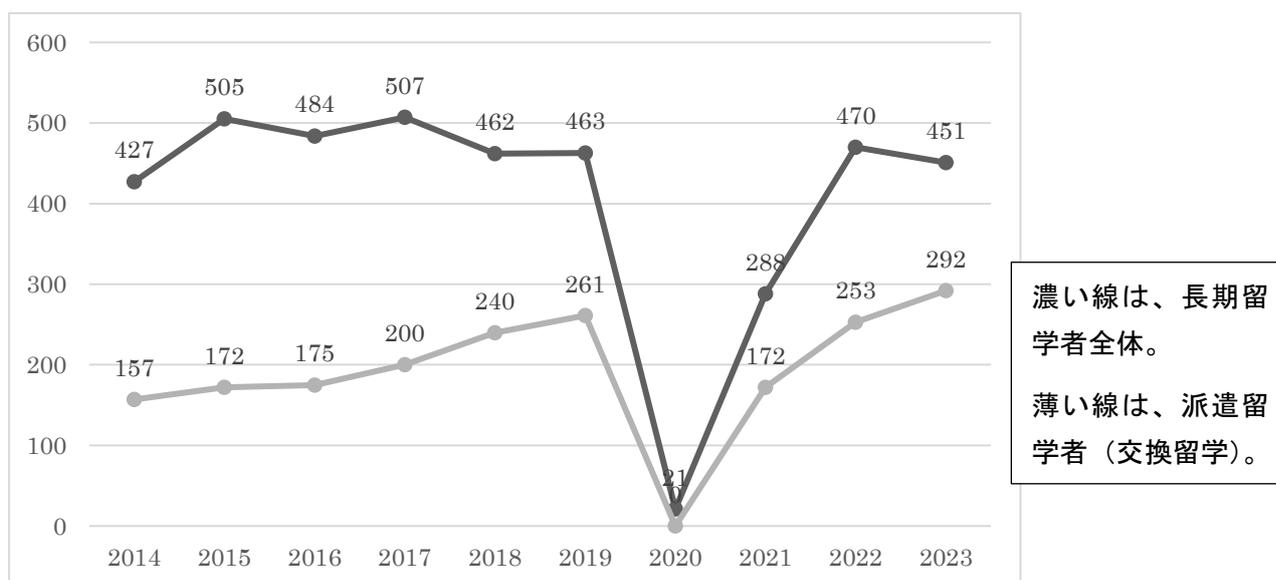
Table 11. 留学種類別・留学開始年度別長期留学者数

	～2022年度（前年度）出発者		2023年度出発者		合計
	2022年度以前出発、 2023年度帰国	2023年度以前出発、 2023年度留学中	2023年度出発	2023年度帰国	
交換・DDP	217	0	251	42	510
休学留学	64	1	49	16	130
自由留学	59	2	36	27	124
長期インターン	16	7	18	12	53
合計	356	10	354	97	817
	366		451		

### ②留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）

年度出発者の数の推移は以下のとおりです。当該年度出発者としては、交換留学者数は過去最高の数値となっています。

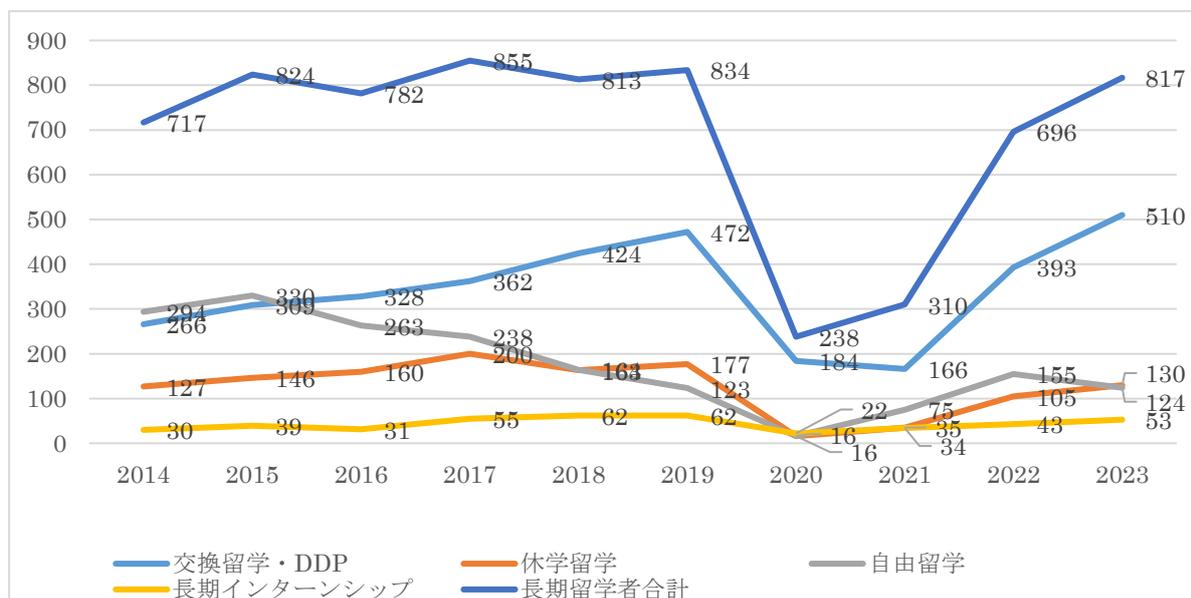
Table 12. 留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）



### ③留学種別長期留学者数の推移

長期留学の種別留学者数の2014年度からの10年間の推移は、以下の通りとなっています。

Table 3. (再掲) 種別長期留学者数の推移



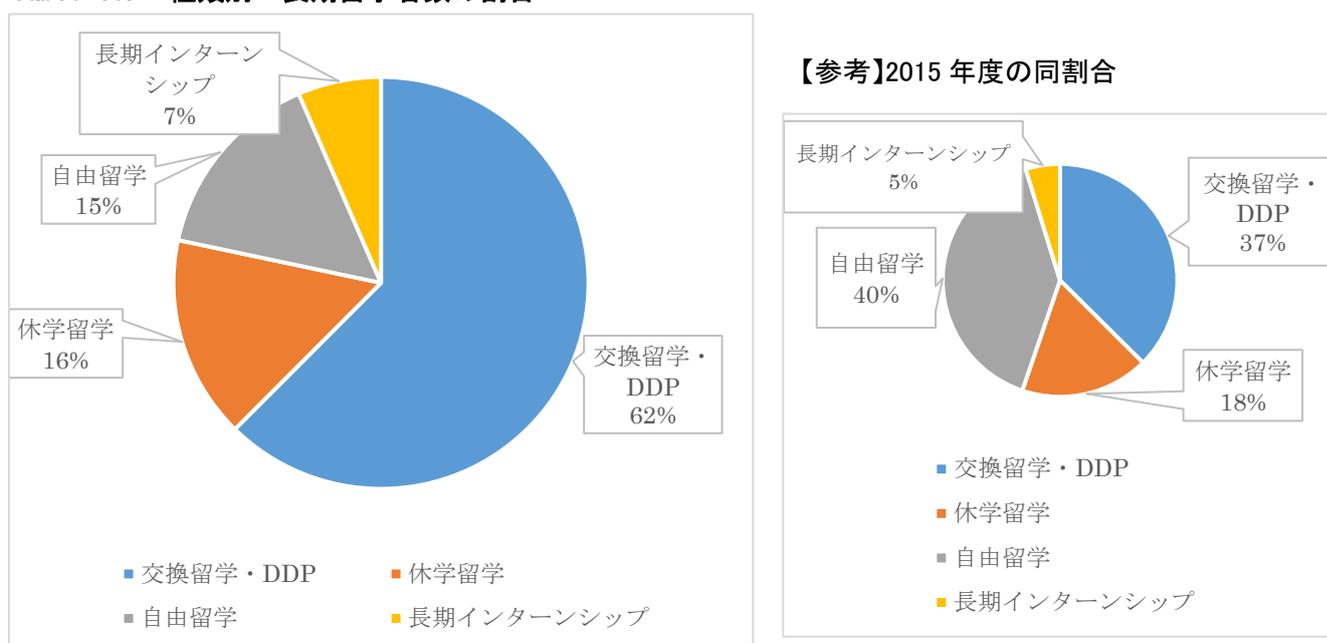
年度	交換留学 ・DDP	休学留学	自由留学	長期インターン	留学者数合計
2014年度	266	127	294	30	717
2015年度	309	146	330	39	824
2016年度	328	160	262	32	782
2017年度	362	200	238	55	855
2018年度	424	163	164	62	813
2019年度	472	177	123	62	834
2020年度	184	16	16	22	238
2021年度	166	35	75	34	310
2022年度	393	105	155	43	696
2023年度	510	130	124	53	817

2022年度と比較すると、留学者総数は120名ほど増加しました。特に交換留学では、統計を取り始めた2014年度以降で最大数となりました。休学しての留学（休学留学・自由留学）は前年度と同水準でしたが、休学留学が増えて、自由留学が減りました。長期インターンシップ参加者も、2020年度以降、ゆるやかな増加が続いています。

#### ④留学種別長期留学者数と長期留学者総数に対する割合

長期留学の種類ごとの人数が全体に対してどの程度の割合になるかについては、以下のとおりとなります。交換留学・DDPの割合が一番大きく62%を占めています。これは例年通りの傾向と言えます。休学しての留学・渡航については、休学留学と自由留学がほぼ同じ割合となっています。参考として2015年度の割合を示したグラフを掲出しています。2015年度は休学して留学する学生が全体の半数以上を占めていましたが、近年は交換留学が半数以上を占めており、この10年の間に、協定校の増加とともに留学種別の割合が変化してきていることがわかります。

Table 13. 種別別 長期留学者数の割合

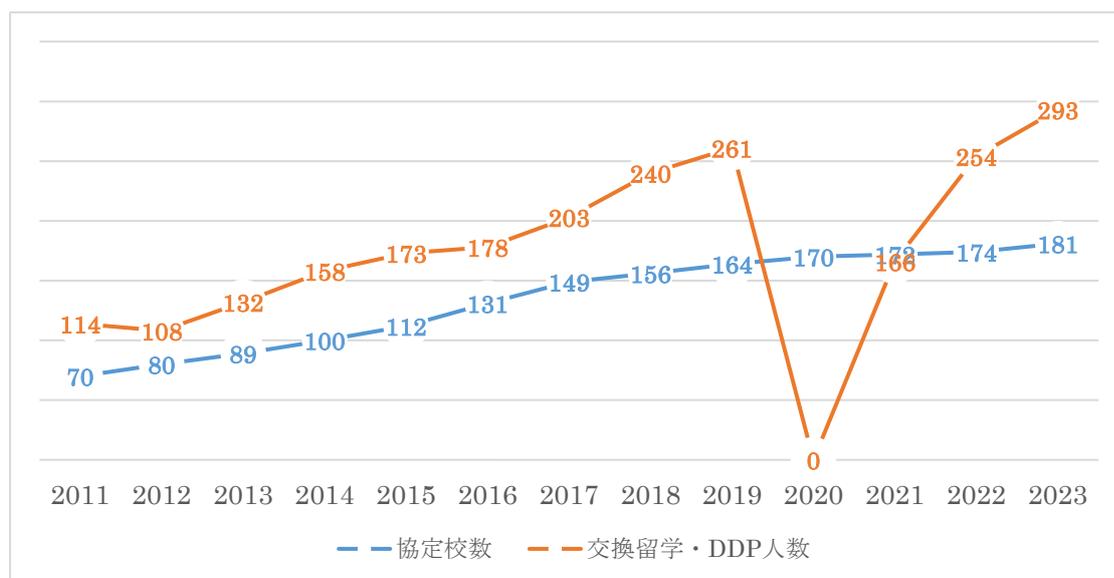


長期留学のうち、本学が特に推奨するのは、「交換留学」ですが、2023年度では510名となり、これまで最大数だった2019年度の472名を超えました。今後もこの傾向が続くものと予想されます。

#### ⑤学生交流協定校数と交換留学者数の推移

2019年度まで順調に交換留学者数が伸びていましたが、2020年度は派遣を中止したためゼロとなり、2021年度は夏から派遣を再開したため、派遣人数は2019年度よりも100名ほど少ない人数でした。2022年度には、一部の国を除き派遣が全面的に再開したため、2019年度に匹敵する人数となりました。そして2023年度は293名と過去最高の値となり、COVID-19パンデミックを経てV字回復となりました。今後は、協定校数の増加は非常に緩やかになると予想され、留学者数の増加も頭打ちとなる可能性があります。本学の学生人数規模に応じた適正な派遣人数というものがあると思われます。適度な競争性を維持し、優秀な学生を選抜するという意味でも今後はこの水準を維持する方向に進むべきと考えられます。

Table 14. 学生交流協定校数と交換留学・DDP 者数（年度出発者）の推移



⑥留学先地域別・留学種類別長期留学者数

留学先としては、ヨーロッパが最も多くなっています。ウクライナ情勢の影響によりロシア・中央アジア地域への留学者数は例年よりも少なくなっています。

Table 15. 留学先地域別・留学種類別長期留学者数

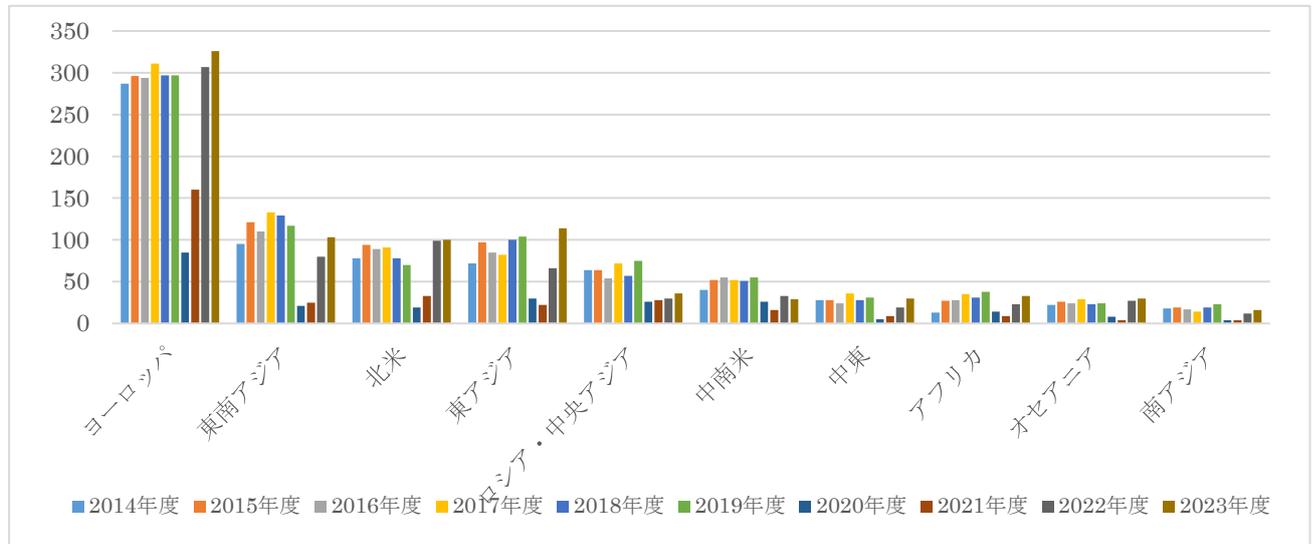
地域名	交換留学・DDP	休学留学	自由留学	長期インターンシップ	合計
ヨーロッパ	246	37	39	4	326
東南アジア	49	20	12	22	103
東アジア	86	16	10	2	114
ロシア・中央アジア	17	17	0	2	36
北米	36	18	41	5	100
中南米	19	7	3	0	29
アフリカ	22	0	3	8	33
中東	16	6	4	4	30
オセアニア	11	7	10	2	30
南アジア	8	2	2	4	16
合計	510	130	124	53	817

2023 年度に本学から長期留学をした学生の渡航先地域は、多い順にヨーロッパ、東アジア、東南アジア、北米となっています。

⑦留学先地域別長期留学者数の推移

地域別長期留学者数の推移は以下のとおりです。

Table 16. 留学先地域別長期留学者数の推移



留学先地域名	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
ヨーロッパ	287	296	294	311	297	297	85	160	307	326
東南アジア	95	121	110	133	129	117	21	25	80	103
北米	78	94	89	91	78	70	19	33	99	100
東アジア	72	97	85	82	100	104	30	22	66	114
ロシア・中央アジア	64	64	54	72	57	75	26	28	30	36
中南米	40	52	55	52	51	55	26	16	33	29
中東	28	28	24	36	28	31	5	9	19	30
アフリカ	13	27	28	35	31	38	14	9	23	33
オセアニア	22	26	24	29	23	24	8	4	27	30
南アジア	18	19	17	14	19	23	4	4	12	16
留学者数合計	717	824	780	855	813	834	238	310	696	817

2023 年度では、前年度と比べるとヨーロッパ、東南アジア、東アジアへの派遣が増加しました。全体人数が増加したため、ほぼすべての地域において増加していますが、ロシア・中央アジア地域では、2019 年度以前と比べると低い水準となっています。留学先の分布は、地域情勢が反映されたものになっているといえます。

⑧留学先国別・留学種類別長期留学者数

2023 年度は留学人数が多かった国としては、アメリカ、フランス、韓国、イギリス、カナダとなっており、上位 10 カ国は、北米、ヨーロッパ、東アジアの国々となっています。人数は少ないもののアフリカ諸国をはじめ、多様な国へ留学しているのは本学の特徴と言えます。

Table 17. 留学先国別・留学種類別長期留学者数

	国名	交換留学 DDP	休学留学	自由留学	長期インターン シップ	合計
1	アメリカ	29	13	11	4	57
2	フランス	41	5	4	1	51
3	韓国	38	5	6	1	50
4	イギリス	36	2	5	1	44
5	カナダ	7	5	30	1	43
5	ドイツ	39	1	3	0	43
7	スペイン	31	8	3	0	42
8	台湾	20	10	3	0	33
9	イタリア	26	2	2	0	30
10	タイ	14	9	1	2	26
11	中国	21	1	1	1	24
12	オーストラリア	7	6	9	1	23
13	カザフスタン	8	14	0	0	22
14	アイルランド	17	0	4	0	21
15	インドネシア	6	9	3	2	20
16	ベトナム	9	0	2	6	17
17	ポルトガル	13	2	1	0	16
18	トルコ	12	0	0	1	13
18	ポーランド	2	9	1	1	13
20	インド	7	2	2	0	11
20	チェコ	8	3	0	0	11
20	フィリピン	3	1	3	4	11
23	スイス	10	0	0	0	10
23	フィンランド	4	1	5	0	10
23	マレーシア	2	1	2	5	10
23	メキシコ	5	3	2	0	10
27	ウズベキスタン	9	0	0	0	9
27	エジプト	7	0	2	0	9
27	ブラジル	7	2	0	0	9
30	南アフリカ	7	0	1	0	8
31	オーストリア	5	1	1	0	7
32	シンガポール	4	0	1	1	6
32	ニュージーランド	4	1	1	0	6
32	マルタ	0	1	5	0	6
32	ラオス	4	0	0	2	6
36	オランダ	5	0	0	0	5
36	バングラデシュ	1	0	0	4	5

36	モンゴル	5	0	0	0	5
36	ヨルダン	2	3	0	0	5
40	アルゼンチン	3	1	0	0	4
40	イラン	0	3	0	1	4
40	カンボジア	4	0	0	0	4
40	ルワンダ	2	0	0	2	4
44	オマーン	2	0	0	1	3
44	ガーナ	2	0	0	1	3
44	キルギス	0	3	0	0	3
44	コロンビア	3	0	0	0	3
44	ザンビア	3	0	0	0	3
44	ノルウェー	3	0	0	0	3
44	ブルネイ	3	0	0	0	3
51	カタール	0	0	2	0	2
51	ケニア	0	0	0	2	2
51	デンマーク	0	0	2	0	2
51	ハンガリー	0	0	1	1	2
51	ブルガリア	2	0	0	0	2
51	ベルギー	2	0	0	0	2
51	リトアニア	1	1	0	0	2
51	香港	2	0	0	0	2
59	アゼルバイジャン	0	0	0	1	1
59	アルメニア	0	1	0	0	1
59	イスラエル	0	0	1	0	1
59	エストニア	0	0	1	0	1
59	キューバ	0	0	1	0	1
59	クウェート	0	0	1	0	1
59	ジンバブエ	0	0	0	1	1
59	スウェーデン	0	0	1	0	1
59	スロベニア	1	0	0	0	1
59	セーシェル共和国	0	0	0	1	1
59	タジキスタン	0	0	0	1	1
59	チリ	1	0	0	0	1
59	トンガ	0	0	0	1	1
59	ナミビア	0	0	0	1	1
59	パレスチナ	0	0	0	1	1
59	ペルー	0	1	0	0	1
59	モロッコ	1	0	0	0	1
	合計	510	130	124	53	817

留学先国・地域数合計：75

⑨長期留学者の給付型奨学金受給状況

交換留学・DDP 参加者 510 人のうち、給付型奨学金を受給した学生は 381 人で、74.7%にのびります。JASSO（日本学生支援機構）が多数を占めますが、業務スーパージャパンドリーム財団の奨学金受給者も多数います。

2023 年度に留学を経験した学生の給付型奨学金受給状況を、留学種別にまとめると以下のようになります。

Table 18. 長期留学者の奨学金受給者数

奨学金名	交換留学 DDP	休学 留学	自由 留学	長期 インターン	合計
JASSO	283				283
業務スーパージャパンドリーム財団奨学金	59				59
ポーランド政府奨学金		9			9
佐藤陽国際奨学財団	6				6
日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画		2	2		4
IBP グローバル留学奨学金		1	2		3
トビタテ 15 期	2			1	3
バーデン・ヴュルテンベルク州留学奨学金	3				3
埼玉発世界行き奨学金	3				3
電通育英会	2		1		3
JASSO、KDDI 財団奨学金	2				2
JASSO、UI SHINE scholarship	2				2
JASSO、ジュネーブ大学奨学金	2				2
JASSO、小山台教育財団海外チャレンジ支援	2				2
JASSO、飯塚毅育英会	2				2
寺浦さよ子記念奨学会奨学金	2				2
Erasmus+ KA107 奨学金	1				1
JASSO、エラスムス奨学金	1				1
JASSO、春秋育英会奨学金	1				1
JASSO、淡江大学交換学生奨学金	1				1
JASSO、朝鮮奨学金	1				1
JASSO、東京海上各務記念財団留学奨学金	1				1
KDDI 財団奨学金	1				1
KDDI 財団奨学金、寺浦さよ子記念奨学会奨学金	1				1
クウェート政府奨学金			1		1
トビタテ 15 期、「埼玉発世界行き」冠奨学金	1				1
ハンガリー政府奨学金			1		1
リトアニア政府奨学金		1			1
現地大学からの奨学金		1			1
国際ロータリー第 2550 地区 地区補助金		1			1
国際教育支援基金	1				1
鎗田邦男インダス会南アジア教育研究奨学基金	1				1
南インドアナ日本人補習校南インドアナ大学留学プログラム			1		1
合計	381	15	8	1	405

なお、長期インターンシップの中には、在外公館勤務 20 名、および日本語パートナーズ派遣事業 8 名が含まれており、これらは公務での渡航となり給与等が支給されるものです。奨学金扱いではないため、上記表中にはカウントされていません。  
ポーランド政府奨学金は、毎年多くの外大生が受給しています。

交換留学、その他で分けた場合の奨学金受給状況は以下のとおりです。

Table 4-1. 奨学金受給状況（交換留学生）（再掲）

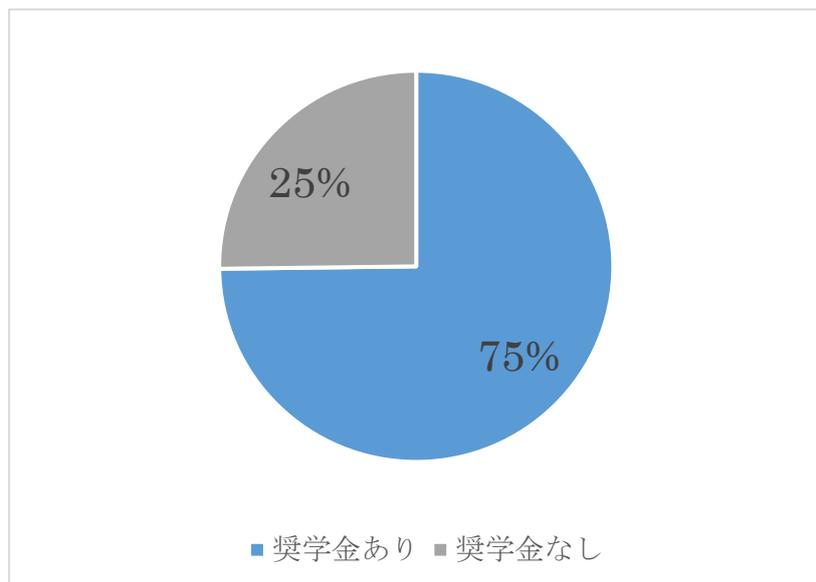
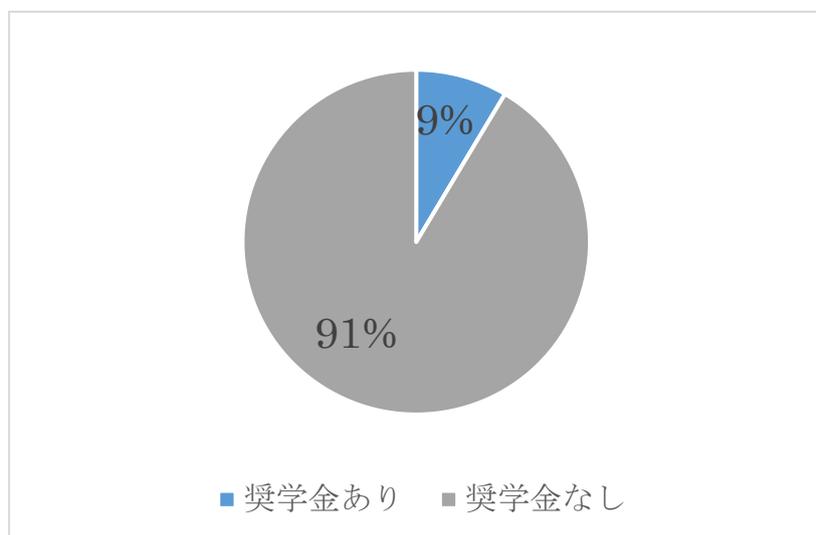


Table 4-2. 奨学金受給状況（休学・自由留学、長期インターンシップ）（再掲）



交換留学制度を利用して留学をした学生の方が、それ以外の留学形態に比べて受給率が非常に高いことがわかります。これは、奨学金の応募要件に学生交流協定に基づく留学であることとの指定のある奨学金が多いためです。経済的支援が必要な留学希望者は、まず交換留学を目指すことが留学実現への近道となります。

留学種類別の奨学金の受給率は以下のとおりです。

Table 19. 長期留学種類別奨学金受給率

	受給者数 (人)	留学者合計(人)	奨学金受給率
交換留学	380	508	74.8%
DDP	1	2	50.0%
休学留学	15	130	11.5%
自由留学	8	124	6.5%
長期インターンシップ	1	53	1.9%
合計	405	817	49.6%

⑩2021 年度長期留学者の単位認定状況

留学者が長期留学先で取得した単位を本学の単位として認定するには、留学者本人が所定の書類を提出し、「単位認定申請」を行うことが必要です。交換留学の場合、単位認定は帰国後1年以内に行うことになっています。休学留学の場合は、休学終了後1年以内に行うこととなります。そのため、2021年度に留学に出発した学生の単位認定の大部分は、2022年度または2023年度に行われることとなります。

2021年度に出発、または帰国した学生の単位認定状況は、2024年3月31日現在以下のとおりとなっています。

Table 20. 2021年度に出発・帰国した交換・休学留学者の単位認定状況 (2024.3.31現在)

	単位認定済 (人)	単位認定未済 (人)	合計 (人)	単位認定実施率
交換留学	90	77	167	53.9%
休学留学	12	23	35	34.3%

JASSOの奨学金を受給するためには、留学中の単位取得が必須となっています。ただし、留学先で取得した単位を本学の単位として認定する手続きをしない学生も一定数います。2021年度の留学者については、COVID-19パンデミックの影響をうけており、留学を途中で切り上げた学生も多く、帰国後も本学ではオンライン授業のみとなっていた時期にあたり、単位認定手続きをする学生が少なかったことの一因になった可能性があります。

### 3. 学部（短期留学）

ここでは、学部生の短期留学に関するデータを整理します。

#### ①留学種類別短期留学者数

短期留学の参加者数を留学種類別に見てみます。

短期 Table 1 留学種類別留学者数

留学種類	人数
ショートビジット	498
スタディツアー	52
短期インターンシップ	13
短期自由留学	15
短期留学者総数	578

#### ②学部別・留学種類別短期留学者数

学部ごとの参加者数は以下の通りです。

短期 Table 2 留学種類別・学部別短期留学者数

留学種類	言語文化	国際社会	国際日本	合計
ショートビジット	243	222	33	498
スタディツアー	16	34	2	52
短期インターンシップ	7	6	0	13
短期自由留学	9	6	0	15
合計	275	268	35	578

学部別では、言語文化学部の参加人数が一番多くなっています。

#### ③学年別・留学種類別短期留学者数

学年別の参加人数は以下の通りです。

短期 Table 3 留学種類別・渡航時学年別短期留学者数

留学種類	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
ショートビジット	258	183	33	24	498
スタディツアー	37	12	3	0	52
短期インターンシップ	0	9	0	4	13
短期自由留学	2	5	4	4	15
合計	297	209	40	32	578

学年別では、1年生の参加人数が一番多くなっています。ショートビジットでは、全体の半数以上が1年生です。

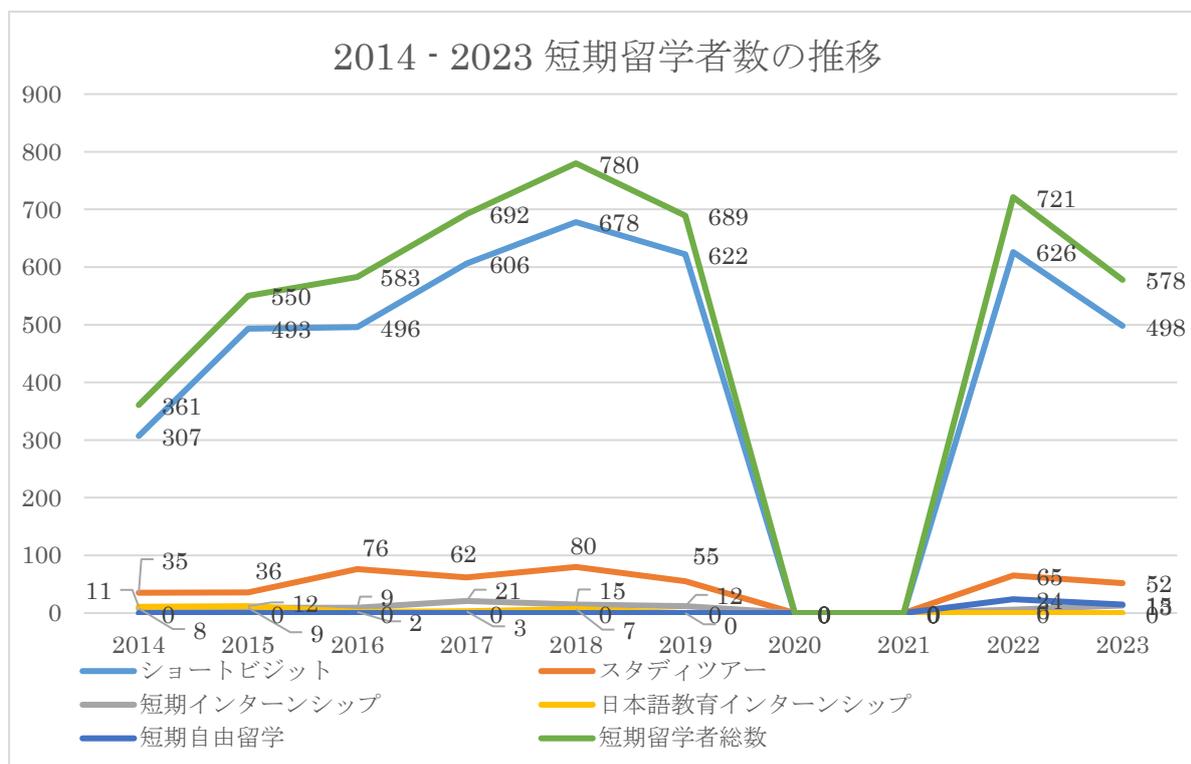
④留学年度別・留学種類別短期留学者数の推移

短期 Table 4 (再掲) 留学種類別・年度別短期留学者数

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
ショートビジット	307	493	496	606	678	622	0	0	626	498
スタディツアー	35	36	76	62	80	55	0	0	65	52
短期インターンシップ	8	9	9	21	15	12	0	0	6	13
日本語教育インターンシップ	11	12	2	3	7	0	0	0	0	0
短期自由留学	0	0	0	0	0	0	0	0	24	15
短期留学者総数	361	550	583	692	780	689	0	0	721	578

※2022年度より、「短期自由留学」(個人的に短期留学したもの)という分類を追加。  
短期派遣全体では、ショートビジットの参加者が大幅に減少。2016年度と同水準となっています。

短期 Table 5 (再掲) 留学種類別・年度別短期留学者数推移



2020年度、2021年度はCOVID-19のパンデミックにより、短期留学の現地派遣は実施されず2年間、実績なしの状態が続きましたが、2022年度に現地渡航を再開しました。2023年度は、2022年度よりも留学者数は大きく減少しました。

⑤留学先地域別・留学種類別短期留学者数

短期留学者を地域別・種類別にみると、多い順にヨーロッパ、北米、東南アジアとなっています。

短期 Table 6 留学先地域別・留学種類別短期留学者数

地域	ショート ビジット	スタディ ツアー	短期インター ンシップ	短期自由 留学	合計
ヨーロッパ	195	0	0	3	198
北米	85	28	0	1	114
東南アジア	49	10	4	0	63
中東	29	0	0	0	29
東アジア	46	0	0	5	51
南アジア	25	0	7	0	32
ロシア・中央アジア	19	14	0	1	34
オセアニア	35	0	0	4	39
アフリカ	9	0	2	0	11
中南米	6	0	0	1	7
<b>総計</b>	<b>498</b>	<b>52</b>	<b>13</b>	<b>15</b>	<b>578</b>

⑥留学先地域別短期留学者数の経年変化

短期 Table 7 留学先地域別・短期留学者数の経年推移

地域	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
ヨーロッパ	107	175	168	209	214	243	0	0	234	198
北米	65	90	106	120	116	104	0	0	135	114
東南アジア	60	84	93	112	131	108	0	0	108	63
中東	20	31	28	42	41	30	0	0	64	29
東アジア	20	38	62	71	116	53	0	0	45	51
南アジア	0	9	16	17	33	40	0	0	44	32
ロシア・中央アジア	16	25	35	39	53	38	0	0	38	34
オセアニア	12	23	21	51	28	38	0	0	37	39
アフリカ	7	9	17	18	25	17	0	0	8	11
中南米	0	9	37	13	23	18	0	0	8	7
<b>総計</b>	<b>361</b>	<b>562</b>	<b>583</b>	<b>692</b>	<b>780</b>	<b>689</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>721</b>	<b>578</b>

2023年度は、2022年度と比べると短期留学者数が大幅に減少しました。短期派遣の無かった2020年度、2021年度を除くと、多少の増減はあるものの全体としては増加傾向にありました。しかし、2023年度は一転、減少となりました。前述の通り、世界的な物価上昇、為替相場での円安傾向などが影響して、留学に必要な費用が増大しており、経済的な理由により短期留学を見送る学生が増えたと推測しています。JASSO奨学金（月額6～10万円）を受給できたとしても、留学に必要な費用全体のごく一部にしかならないため、効果的な支援とは言えない状況です。例えば、アメリカへの短期留学でビザが必要な場合、ビザ取得だけで、535ドル（1ドル155円換算で、約83,000円）かかります。

⑦留学先国別・留学種別短期留学者数

短期 Table 8 留学先国別・留学種別短期留学者数

番号	国名	ショートビジット	スタディ ツアー	短期インター ンシップ	短期自由 留学	合計
1	アメリカ	52	28	0	1	81
2	アイルランド	37	0	0	0	37
3	カナダ	33	0	0	0	33
4	インド	25	0	7	0	32
5	イギリス	30	0	0	0	30
6	ニュージーランド	26	0	0	0	26
6	ポーランド	25	0	0	1	26
8	タイ	24	0	1	0	25
9	スペイン	22	0	0	1	23
10	韓国	17	0	0	4	21
11	トルコ	20	0	0	0	20
12	フランス	18	0	0	1	19
13	ドイツ	18	0	0	0	18
14	ウズベキスタン	1	14	0	0	15
15	オーストラリア	9	0	0	3	12
15	カザフスタン	12	0	0	0	12
15	チェコ	12	0	0	0	12
15	ベトナム	12	0	0	0	12
15	モンゴル	12	0	0	0	12
15	台湾	12	0	0	0	12
21	マレーシア	0	10	1	0	11
22	ラオス	10	0	0	0	10
23	エジプト	9	0	0	0	9
23	オーストリア	9	0	0	0	9
23	スイス	9	0	0	0	9
23	ヨルダン	9	0	0	0	9
27	イタリア	7	0	0	0	7
27	キルギス	6	0	0	1	7
29	コロンビア	5	0	0	0	5
29	ポルトガル	5	0	0	0	5
31	中国	3	0	0	1	4
32	スロバキア	3	0	0	0	3
32	フィリピン	3	0	0	0	3
34	カンボジア	0	0	2	0	2
34	キューバ	1	0	0	1	2
34	セネガル	0	0	2	0	2
34	香港	2	0	0	0	2
38	フィジー	0	0	0	1	1
	<b>合計</b>	<b>498</b>	<b>52</b>	<b>13</b>	<b>15</b>	<b>578</b>

### ⑧短期留学者の単位認定状況

短期留学者の単位認定状況は次の通りです。

短期 Table 9 短期留学者の単位認定状況

留学種類	単位認定あり	単位認定なし	合計
ショートビジット	494	4	498
スタディツアー	52	0	52
短期インターンシップ	0	13	13
短期自由留学	0	15	15
合計	546	32	578

ショートビジットは本来単位認定がありますが、単位認定無しの4名のうち3名は、4年生の冬学期の参加者(卒業までに単位認定作業が間に合わないため、単位認定無しでの参加)でした。残り1名は、申請時期が遅れた等の理由によるものです。短期インターンシップについては、2023年度は単位認定ありのプログラムは実施されておりません。また、短期自由留学は私的な渡航の扱いとなるため、単位認定は行われません。

### ⑨短期留学者の奨学金受給状況

短期留学者の奨学金の受給状況は次の通りです。

短期 Table 10 短期留学者の奨学金受給状況

留学種類	奨学金あり	奨学金なし	合計
ショートビジット	101 (20.3%)	397 (79.7%)	498
スタディツアー	16 (30.8%)	36 (69.2%)	52
短期インターンシップ	7 (53.8%)	6 (46.2%)	13
短期自由留学	4 (26.7%)	11 (73.3%)	15
合計	128 (22.1%)	450 (77.9%)	578

ショートビジットでは JASSO の海外留学支援制度(協定派遣)を利用していますが、この制度では、重点政策枠を除き、31 日以上のプログラムを支援対象としていることから、過去と比較すると受給者割合は低くなっています(2019 年度は、58.5%の学生が受給)。スタディツアーでの奨学金は、JASSO が 14 名、国際教育支援基金が 2 名となっています。短期自由留学での 4 名は、大邱大学の韓日共同高等教育留学交流事業(韓国政府奨学金)に採用された学生が 3 名、ポーランド政府奨学金受給者が 1 名です。短期インターンシップの 7 名は、厳密に言えば奨学金ではありませんが、国際交流基金から支援を受けて短期の日本語教育に従事したもので、経済的援助があるため奨学金ありとみなしています。

#### 4. 大学院生（短期・長期）

本学の大学院の在籍者 524 人（前期課程 315 人、後期課程 209 人）（2023 年 5 月 1 日現在）に対し、留学者数は、必ずしも多くはありません。

##### ①大学院生の長期留学について

院 Table 2. 大学院生の留学種類別長期留学状況

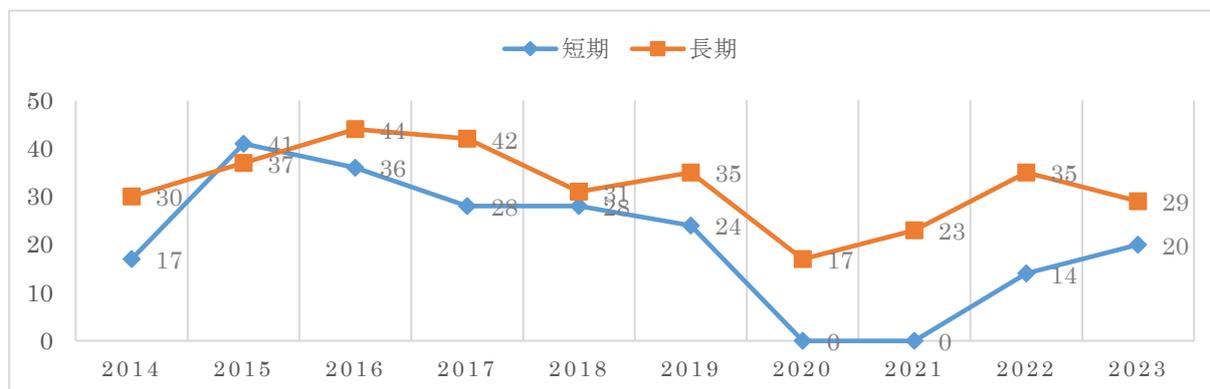
	2022 年度以前 出発、2023 年 度帰国	2022 年度以前 出発、2023 年 度留学中	2023 年度出 発、帰国	2023 年度出発、 2024 年度以降 帰国	合計
交換留学	5	0	2	4	11
自由留学	4	0	0	2	6
長期インターンシップ	3	1	0	0	4
ダブルディグリー（HIPS）	0	0	2	5	7
JEP	0	0	0	1	1
合計	12	1	4	12	29

##### ②大学院生の短期留学について

院 Table 3. 大学院生の留学種類別短期留学状況

留学種類	人数
JEP	6
ショートビジット	4
スタディツアー	3
短期自由留学	1
短期インターンシップ（日本語教育）	6
留学者合計	20

院 Table 1（再掲） 大学院生の留学期間別の留学者数の人数推移



大学院生の留学状況については、長期留学においては前年度からやや減少しました。短期留学は、前年度より増加し、COVID-19 による派遣中断後、回復傾向にあります。総数としては、前年度とほぼ同じ水準で推移しています。短期インターンシップは、国際交流基金と連携して実施している大学連携日本語パートナーズ派遣事業による派遣です。

### ③大学院生の奨学金受給状況

短期・長期を合わせた留学種類別の奨学金受給状況は以下のとおりです。

院 Table 4. 留学種類別奨学金受給状況

期間 奨学金名称	長期				短期			合計
	交換 留学	自由 留学	DDP (HIPS)	JEP 長期	SV	JEP	日本 語 P	
日本学生支援機構 (JASSO) 海外留学支援制度	10	0	6	1	2	5	0	24
JASSO、埼玉発世界行き冠奨学 金 (浦和競馬)	1	0	0	0	0	0	0	1
国際交流基金 (日本語 P)	0	0	0	0	0	0	6	6
松下幸之助国際スカラシップ	0	1	0	0	0	0	0	1
ベルギー国フランス語共同体	0	1	0	0	0	0	0	1
チェコ政府奨学金	0	1	0	0	0	0	0	1
国際教育支援基金	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	11	3	6	1	2	6	6	35

2023 年度は交換留学に参加した 11 名全員が JASSO の奨学金を受給しています。そのうち 1 名は埼玉県が実施する奨学金制度との併給でした。各国政府による奨学金は、大学院レベルに対して支給されるものも多く、2023 年度は 2 名が各国政府の奨学金を得ています。なお、長期インターンシップに参加した学生は奨学金の受給実績がないため上記の表には記載がありませんが、在外公館派遣員など、報酬 (給与) を得ているケースもあります。

## 5. オンライン留学の状況

COVID-19 パンデミック下では、オンラインで海外の授業を受講する「オンライン留学」が普及しました。その後、パンデミック終息宣言後、現地渡航が再開してからは、オンライン留学は下火となっています。2023年度のオンライン留学者は2名でした。2名とも2022年度に留学を開始した学生です。2023年度に留学を開始した学生にはオンライン留学者はいませんでした。以下、オンライン留学の実績について記載します。

実渡航を伴う留学とオンライン留学を合わせた人数（学部、大学院の合計）

留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
実渡航を伴う留学者数	599	846	1,445	4,208
オンライン留学者数	0	2	2	
合計	599	848	1,447	

### ①セメスター単位でのオンライン留学

2023年度に協定校にオンライン留学を実施した人数は2名となっています。  
ロシア1名、中国1名です。

ロシアについては、ウクライナ侵攻が開始されてから、外務省が発出する海外安全情報において危険レベル3に引き上げられたことにより、現地渡航できない状況が続いています。また中国でも、一部の大学では交換留学生の受け入れ再開が遅れ（ビザ発給が停止状態）、予定通りに現地渡航できないケースが発生しました。それらによりオンライン留学を選択した学生が出ました。

## V. 2023 年度学部卒業時点での留学状況について

2023 年度（3 月）には、650 名の学部生が卒業しました。650 人の在学中の留学状況をまとめると以下のようになります。（オンライン留学もカウントしています。）

卒業生（外国籍学生を含む）

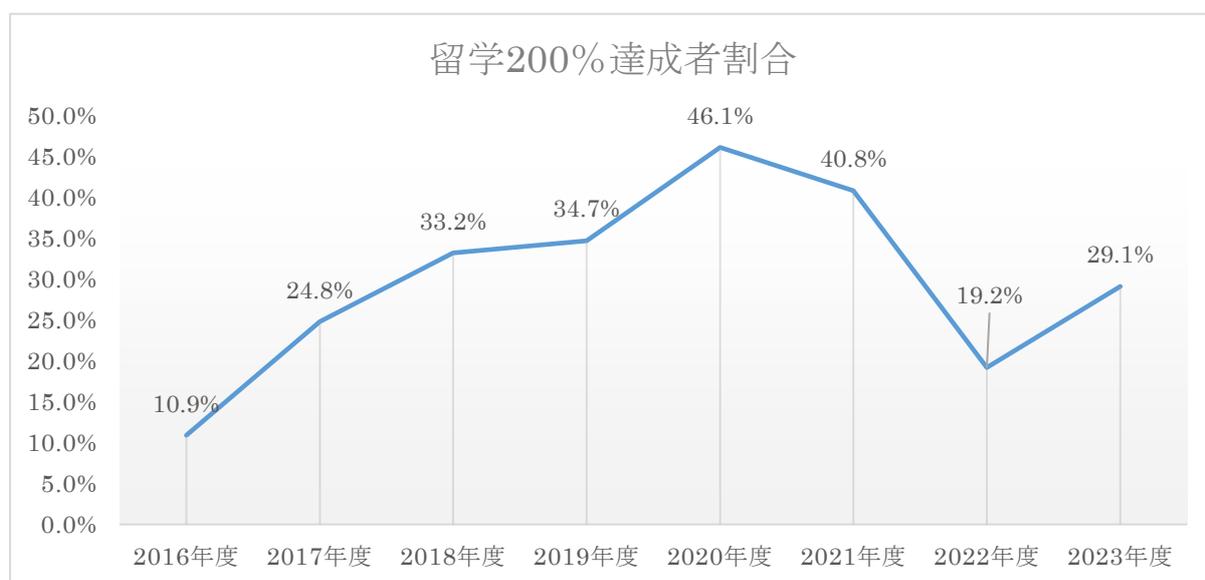
留学回数	人数	2 回以上留学者数	割合
0 回	246	189	29.1%
1 回	215		
2 回	147		
3 回以上	42		
合計	650	189	29.1%

※休学を伴わない私的な旅行等は対象外としています。

卒業生（日本国籍保持者のみ）【参考】

留学回数	人数	2 回以上留学者数	割合
0 回	211	187	30.8%
1 回	209		
2 回	145		
3 回以上	42		
合計	607	187	30.8%

本学では、スーパーグローバル構想の中で「留学 200%」つまり、在学中に 2 度またはそれ以上の留学をすることを推奨しています。留学を 2 回以上経験した学生の全学生数に対する割合は、2017 年度以降 24.8%、33.2%（2018）、34.7%（2019）、46.1%（2020）、40.8%（2021）、19.2%（2022）と推移し、2023 年度は 29.1%となりました。前年度からは増加していますが、最大値だった 2020 年度卒業者と比較すると 17 ポイント低くなっています。2023 年度卒業者の大多数が 2019 年度、もしくは 2020 年度入学で、2019 年の年末に発生した COVID-19 によるその後の渡航制限などの影響を受けた世代であり、それが数字にも表れているといえます。



## ①卒業生の在学中の長期留学回数

長期留学を経験した学生の数を留学回数ごとにまとめました。

留学回数	留学者数	うち長期留学 経験者数	短期のみ 経験者数
1	215	94	121
2	147	134	13
3	33	32	1
4	9	9	0
合計	404	269	135

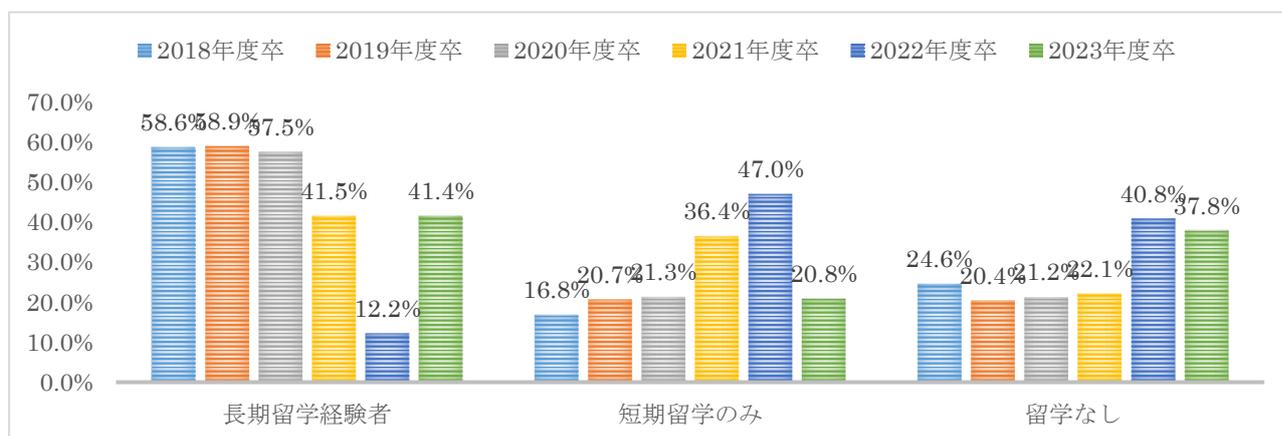
在学中に留学をした404名のうち66.6%にあたる269名が長期留学を経験しています。2020年度は、この割合が72.9%、2021年度は53.3%、2022年度は20.6%でしたので、2023年度3月卒業生については、前年に比べると長期留学経験者の割合が大幅に増加したことが分かります。全体の卒業生での割合でみると、卒業生650名のうち269名、41.4%が長期留学経験者の割合となります。COVID-19パンデミックの収束宣言により留学者数が回復していることを表しているといえます。

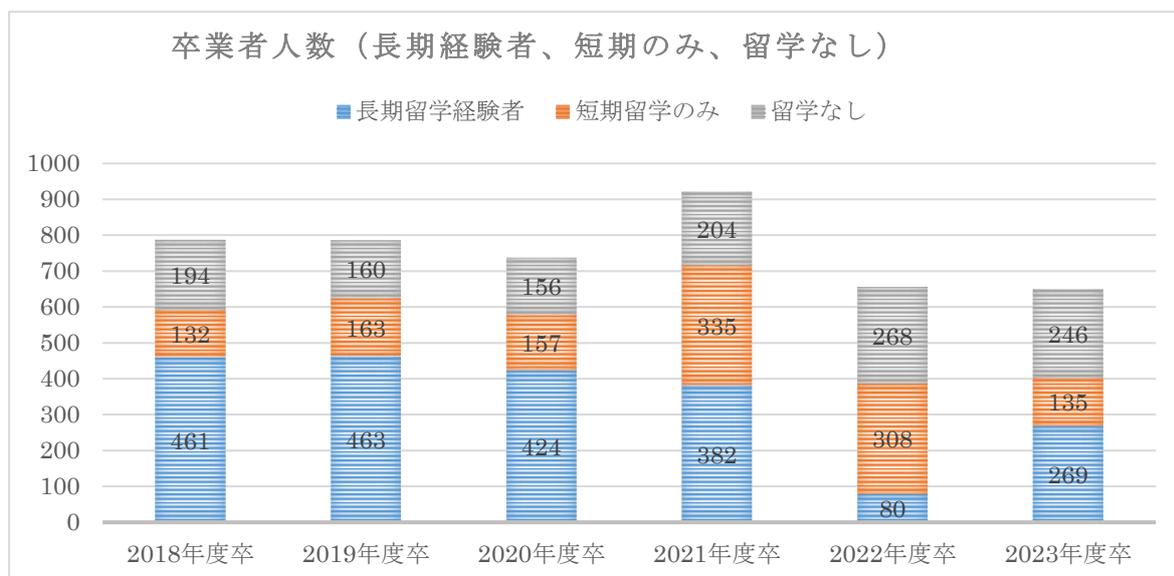
## ②2018～2022年度と2023年度の卒業生の留学状況の比較

2018～2022年度、および2023年度卒業生の留学状況の推移をまとめました。長期留学経験者、短期留学のみの経験者、留学なし、それぞれの数について、比較しています。

全体の卒業生数が年度により増減するため、人数ではなく、卒業生数に対する割合を比較します。表からは2023年度卒業生の長期留学経験者割合が2021年度卒業生と同水準まで回復していることがわかります。ただし、留学していない学生の割合は2022年度卒業生から若干減った程度となっており、COVID-19パンデミックの影響により留学の機会が制限されたことがうかがえます。

留学種類	2018年度卒	2019年度卒	2020年度卒	2021年度卒	2022年度卒	2023年度卒
長期留学経験者	461 (58.6%)	463 (58.9%)	424 (57.5%)	382 (41.5%)	80 (12.2%)	269 (41.4%)
短期留学のみ	132 (16.8%)	163 (20.7%)	157 (21.3%)	335 (36.4%)	308 (47.0%)	135 (20.8%)
留学なし	194 (24.6%)	160 (20.4%)	156 (21.2%)	204 (22.1%)	268 (40.8%)	246 (37.8%)
合計	787 (100%)	786 (100%)	737 (100%)	921 (100%)	656 (100%)	650 (100%)





長期留学経験者、短期留学のみ、留学なしの学生の割合を見ると、2018年度卒から2020年度卒までは、同じような傾向が見て取れます。2021年度卒、2022年度卒では、COVID-19パンデミックの影響を強く受けた世代と言え、それが数値にも表れています。2023年度卒のデータでは、長期留学経験者の割合は、2021年度卒と同水準になっているものの、留学なしの割合はかなり大きく、短期留学はせずに長期留学のみを経験した学生が増えたことがわかります。

人数ベースで見ると、2022年度卒との比較では、留学経験者の人数はあまり差がありませんが、長期留学経験者の割合が大きく増えているのが特徴的です。

### ③2023年度（2024年3月）の卒業生の入学年度別の留学状況

2023年度卒業生の入学年度別の留学状況は以下の表の通りです。

入学年度	人数	留学なし	留学1回	留学2回	留学3回以上
2016年度	3	0	0	0	0
2017年度	11	5	4	2	0
2018年度	56	16	14	16	10
2019年度	313	51	108	123	31
2020年度	254	161	86	6	1
2021年度	8	5	3	0	0
2022年度	5	5	0	0	0
合計	650	246	215	147	42

2021年度、および2022年度入学者は、3年次編入の学生です。

2020年度入学者は4年間で卒業した学生で、半数以上は留学なしとなっています。2019年度入学者は5年間で卒業した学生で、人数割合が一番大きく、75%の学生が1回以上の留学をしています。

## VI.SGU 指標 (2024年6月 フォローアップ調査)

留学については、文科省「スーパーグローバル大学創生事業」が定める算定方法により「日本人学生に占める留学経験者の割合」と「大学間協定に基づく交流数」の算出が求められています。また、本学のSGU構想では、独自の指標として「世界各地への留学数」と「留学200%の達成数」を掲げています。

### ◆ SGU 指標：1. 国際化関連 (2) 流動性 ①日本人学生に占める留学経験者の割合

#### 文科省定義：

- ・全学生数と、日本国籍を保有し正規課程に在籍する学生で、且つ、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。この場合、留学期間は問わない。
- ・大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された学生の数を記入する。この場合、単位取得の有無は問わない。

注1) 単位取得を伴う海外留学経験者数(A)については、過去の経験は除き、当該年度に申請大学において単位認定された学生数を計上。

注2) 当該年度に同じ学生が複数回、単位取得を伴う留学を経験した場合であっても1人として計上。

注3) 全学生数(D)は学校基本調査の定義の全学生から外国人留学生と在日外国人を除いた数(5月1日時点・非正規課程の学生を含む)。

1. 国際化関連 (2) 流動性 ①日本人学生に占める留学経験者の割合											
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
	実績値										
単位取得を伴う海外留学経験者数(A)(人)	119	393	699	750	845	972	847	332	204	741	768
うち女性(人)				578	607	738	590	264	156	538	581
うち学部(B)(人)	119	386	669	723	825	948	837	332	203	733	759
うち女性(人)				558	593	722	583	264	155	528	575
うち大学院(C)(人)	0	7	30	27	20	24	10	0	1	8	9
うち女性(人)				20	14	16	7	0	1	8	6
全学生数(D)(人)	3979	3960	4019	3989	3988	3972	3982	3903	4318	4144	4208
うち女性(人)				2589	2597	2597			2785	2658	
うち学部(E)(人)	3667	3654	3737	3685	3670	3694	3693	3639	3801	3606	3684
うち女性(人)				2427	2432	2431			2473	2338	
うち大学院(F)(人)	312	306	282	304	318	278	289	264	517	538	524
うち女性(人)				162	165	166			312	320	
割合(A/D)%	3.0	9.9	17.4	18.8	21.2	24.5	21.3	8.3	4.7	17.9	18.3
割合(B/E)%	3.2	10.6	17.9	19.6	22.5	25.7	22.7	8.9	5.3	20.3	20.6
割合(C/F)%	0	2.3	10.6	8.9	6.3	8.6	3.5	0	0.2	1.5	1.7
教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された大学院生数(G)(人)	32	23	25	40	41	30	35	15	22	35	29
割合(G/F)%	10.3	7.5	8.9	13.2	12.9	10.8	12.1	5.7	4.3	6.5	5.5
日本国籍を有する正規学生数(全学生数)と、その内、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。留学期間は問わない。また、大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上の研究派遣された学生の数を記入する。単位取得の有無は問わない。											

2023年度のフォローアップ調査票では、留学者数の内訳に関して、女性の人数だけでなく、「実渡航」「オンライン」「ハイブリッド」に分けて報告した。

**本学定義（算出方法）：**

**単位取得を伴う海外留学経験者数（A）について**

- ・ ①2023 年度出発、帰国の学部生：単位認定をした日本国籍の交換留学、休学留学、ショートビジット、スタディツアー、日本語教育インターンシップの人数
- ・ ②①に、前年度以前に留学し本年度に単位認定されたものを加える（日本国籍保持者）。
- ・ ③②から本年度に2度の留学をし、2回とも単位取得しているものを差し引く。

**大学院（C）について**

①大学院生：日本国籍の単位認定をした交換留学、国際機関インターンシップ、大学院生向け TUFJ Joint Education Program、日本語教育インターンシップ、ショートビジット、スタディツアーの人数

- ・ ②①に、前年度以前に留学し本年度に単位認定されたものを加える。
- ・ ③2 から本年度に2度の留学をし、2回とも単位取得しているものを差し引く。

**教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された大学院生数（G）について**

単位取得の有無は問わない。

3ヶ月以上派遣された日本国籍の大学院生（交換、自由、DDP（HIPS）、長期インターン）をカウントする。

**◆SGU 指標：1. 国際化関連 （2）流動性 ②大学間協定に基づく交流数**

**文科省定義：**

- ・ 外国の大学との連携・交流協定に基づき交流した学生数を記入する。
- ・ 日本人学生及び外国人留学生について、単位取得を伴う人数と、伴わない人数を学部生・大学院生別に記入する。

注1) 当該年度に同じ学生を複数回、派遣・受入した場合は延べ数で計上。

注2) 年度またぎの派遣・受入の場合はどちらの年度においても計上。その際、申請大学において単位認定された年度については「うち単位取得を伴う・・・」に、その他の年度については「うち単位取得を伴わない・・・」にそれぞれ計上。

注3) 日本人学生（A）の定義は、日本国籍を保有し申請大学の正規課程に在籍する学生。

注4) 全学生数（B・D）は学校基本調査の定義を引用（2023年5月1日時点・非正規課程の学生を含む）。

1. 国際化関連 (2) 流動性											
②大学間協定に基づく交流数											
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
	実績値										
大学間協定に基づく派遣日本人学生数 (A)	310	568	797	819	950	1093	1069	310	344	1037	1018
うち女性				612	664	854	753	246	258	751	774
うち単位取得を伴う学部生数	103	371	561	566	676	737	690	161	135	690	655
うち女性				444	477	611	477	134	106	499	508
うち単位取得を伴わない学部生数	205	189	218	232	258	324	360	147	206	327	342
うち女性				155	180	222	264	111	150	236	248
うち単位取得を伴う大学院生数	0	7	16	18	12	23	10	0	1	5	10
うち女性				12	6	17	7	0	1	5	8
うち単位取得を伴わない大学院生数	2	1	2	3	4	9	9	2	2	15	11
うち女性				1	1	4	5	1	1	11	10
全学生数 (B)	4559	4592	4647	4721	4690		4414	3903	4318	4144	4208
(うち女性)				3097	3051				2785	2658	
割合 (A/B) (%)	6.8	12.4	17.2	17.3	20.3		25.1	7.9	8.0	25.0	24.2

**本学定義 (算出方法) :**

**大学間協定に基づく派遣日本人学生数 (A) について**

**うち単位取得を伴う学部生数**

日本国籍を持つ単位認定済み交換留学、ショートビジットの日本国籍を持つ単位認定済み参加者数を合計し、協定に基づき二度の留学をして2回とも単位認定をしている学生を差し引く。

**うち単位取得を伴わない学部生数**

交換留学生で単位認定が未済の日本国籍保有者数を算出。これに単位認定のなかった夏学期のショートビジット参加者で日本国籍を持つ学生を加える。

**うち単位取得を伴う大学院生数**

日本国籍を持つ単位認定済み交換留学、ショートビジット、協定校へのJEP(非協定校除く)、協定に基づき二度の留学をして2回とも単位認定をしている学生を差し引く。

※前年度から継続して留学している者や翌年度にかけて留学している者を含む。

**うち単位取得を伴わない大学院生数**

交換留学生で単位認定が未済のものから、日本国籍以外の学生を引いた数を算出。これにショートビジットで単位認定のなかった日本国籍を持つ学生を加える。

◆独自指標

**(指標3) 留学 200%達成者**

本学定義：学部卒業生に占める2度の留学体験者の割合を算出する。留学の定義は、留学白書に掲載分すべて。学生の国籍及び単位取得の有無は問わない。

**(指標4) 本学学生の全世界的展開**

本学定義：本学学部・大学院からの留学生の留学先を地域別に分類する。留学の定義は留学白書への掲載分すべて。学生の国籍は問わない。2回留学したものは、2回カウント。また、単位取得の有無は問わない。2地域・国に留学している学生（休学留学の場合）については、最初に行った国でカウント。（オンライン留学も含む）

大学独自の成果指標と達成目標											
<定量的>											
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
(指標3) 留学 200% 達成者 (%)	0	1.0	11.1	10.9	24.8	33.2	34.7	46.1	40.8	19.2	29.1
(指標4) 本学学生の 全世界的展開 (人)	447	751	1039	1111	1613	1656	1582	406	525	1478	1445
うち北米	44	112	134	156	216	200	179	43	66	237	218
うち欧州	183	254	374	361	536	526	559	135	229	566	550
うち中ア/中央アジア	66	71	81	89	119	114	115	34	44	69	71
うちアフリカ	1	14	20	29	55	56	56	14	10	34	49
うち中近東	20	43	49	46	81	72	163	25	35	87	59
うち東南アジア	45	114	151	156	256	276	239	69	54	195	171
うち南アジア	1	21	24	20	32	56	64	6	6	56	49
うち東アジア	69	83	138	145	168	222	166	41	61	125	169
うち中南米	11	15	32	70	70	81	77	28	16	44	40
うちオセアニア	7	24	42	39	80	53	64	11	4	65	69